

2014 経営レポート



地域とともに新たな未来を！

山口県信用組合

目

次

■ ごあいさつ	1
1 山口県信用組合の歩み	2
2 事業方針	3
3 組織	4
4 総代会の仕組み	5
5 地域貢献	6
6 地域密着型金融の取組状況	14
7 リスク管理体制 法令等遵守体制	15
8 個人情報保護法について	19
9 キャッシュコーナーでの犯罪防止の取組み	21
10 苦情処理措置・紛争解決措置について	22
11 新しい自己資本比率規制	23
12 役員一覧（理事および監事の氏名・役職名）	33
13 報酬体系について	33
14 組合員の推移	34
15 営業地区と店舗配置	35
16 営業内容のあらまし	36
17 手数料の一覧	38

【経理・経営内容】

1 貸借対照表	40
2 損益計算書	48
3 剰余金処分計算書	49
4 粗利益	49
5 業務純益	49
6 経費の内訳	49
7 役務取引の状況	49
8 受取利息および支払利息の増減	49
9 主要な経営指標の推移	49
10 資金運用勘定、調達勘定の平均残高等	50
11 先物取引の時価情報	50
12 オフバランス取引の状況	50

13 総資金利鞘等	50
14 総資産利益率	50
15 その他業務利益の内訳	50
16 有価証券、金銭の信託等の取得価格 または契約価格、時価および評価損益	50
17 1店舗当たりの預金および貸出金残高	50
18 職員1人当たりの預金および貸出金残高	50
19 預貸率および預証率	50

【資金調達】

20 預金種目別平均残高	51
21 預金者別預金残高	51
22 財形貯蓄残高	51
23 定期預金の固定・変動金利別残高	51

【資金運用】

24 有価証券種類別平均残高	51
25 有価証券の種類別・残存期間別残高	51
26 貸出金種類別平均残高	52
27 貸出金固定金利・変動金利別残高	52
28 貸出金業種別残高・構成比	52
29 貸出金使途別残高	52
30 消費者ローン・住宅ローン残高	52
31 貸倒引当金の内訳	52
32 貸出金および債務保証見返担保別残高	52
33 貸出金償却額	52
34 リスク管理債権および同債権に対する保全額	53
35 金融再生法開示債権および同債権に対する保全額	53

【その他業務】

36 代理貸付残高の内訳	54
37 内国為替取扱実績	54
38 外国為替取扱高	54
39 外貨建資産残高	54
40 公共債引受額	54
41 公共債窓販実績	54
42 当組合の子会社	54

ご あ い さ つ



皆様には、平素より山口県信用組合をお引き立て頂き、厚くお礼申し上げます。

本年もここに、当組合の現況をご報告したディスクロージャー誌「経営レポート2014」（平成25年版）を発刊いたしました。本冊子は皆様方に当組合の経営方針、業務内容、業績などについて、ご理解を深めて頂くための資料として作成しており、是非ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

当期における我が国経済を顧みますと、アベノミクスによる景気回復に向けた金融および経済政策が強力に推し進められた結果、自動車関連や化学等の製造業で売上が好調なほか、住宅投資や個人消費も堅調に推移し、外国人観光客も増加傾向にあるなど、日本経済も徐々に回復と再生に向けた動きが実感できるようになったところでもあります。

しかし一方で円安の影響による燃料費等の仕入価格の高騰により、コスト負担が増加し、収益改善が遅れる企業も多く、業種によって景況感のばらつきがあり、とりわけ信用組合の主たる取引先である中小零細事業者には景気回復の実感はなく、引き続き厳しい経営環境の下にあります。

金融面では、中小企業金融円滑化法は、昨年3月末で終了しましたが、信用組合業界では、法律の有無にかかわらず、取引先からの貸出の返済猶予や貸出条件の変更などの相談に積極的かつ柔軟に対応するとともに中小零細事業者に対するコンサルティング機能の発揮に全力で取り組んできたところです。このスタンスは何ら変わるものではなく、今後とも、取引先である中小零細事業者の金融円滑化に向けた取り組みを着実に実行していく所存であります。

このような経営環境の中、当組合は組合員の皆様の変わらぬ力強いご支援を受けながら、役職員が一体となって、鋭意努力を重ねてまいりました結果、概ね次のような業績をあげることが出来ました。

預金積金の期末残高につきましては、地域経済の低迷から前期比957百万円減少し、25,366百万円（前期比△3.63%）となりました。一方、貸出金の期末残高につきましては、事業者向け貸出、個人ローンの積極的な推進の結果、前期比808百万円増加して17,390百万円（前期比4.87%）となりました。

収益面につきましては、経営の健全性と財務体質強化のため、貸倒引当金を13百万円積み増ししましたが、資金の効率的な運用と経費の削減に努めた結果、当期純利益は26百万円を計上することが出来ました。

また、金融機関の健全性を示す自己資本比率は、貸出金残高の増加などによるリスク・アセットの増加から1.51ポイント低下し、8.79%となりましたが、国内基準（4%）は大きく上回る水準を維持しております。

平成26年度は、新しい自己資本比率規制への対応、また、経営者保証ガイドラインへの対応などの諸課題を抱えておりますが、この厳しい経営環境を克服し、地域経済の再生や地域社会の活性化への様々な取組を実践するとともに、内部管理態勢の一層の整備の充実をはかり、経営の合理化、効率化を推進し、体質の強化に努めてまいります。

何卒、これまで以上に一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年7月

理事長 稲田 匠 美

1

山口県信用組合の歩み

昭和 26 年 12 月	山口県知事の認可を得て小野田信用組合として設立 本店・セメント町支店・船木支店の 3 店舗で営業を開始
昭和 30 年 12 月	高千帆支店を開設
昭和 32 年 3 月	国民金融公庫代理業務の取扱開始
昭和 37 年 1 月	商工組合中央金庫代理業務の取扱開始
昭和 39 年 2 月	中小企業金融公庫代理業務の取扱開始
昭和 42 年 6 月	高千帆支店新築移転開店
昭和 57 年 12 月	西宇部支店新築開設
昭和 59 年 8 月	全銀データ通信システム加盟
昭和 61 年 11 月	新本店新築開店 (本店移転と同時にセメント町支店を廃止し統合)
昭和 62 年 4 月	住宅金融公庫代理業務の取扱開始
昭和 63 年 7 月	自営オンラインシステム開通 (業務取扱開始)
平成 元年 12 月	本店 A T M 土曜日稼働開始
平成 2 年 11 月	全国キャッシュサービスに加盟
平成 7 年 3 月	埴生出張所・A T M 開設
平成 8 年 11 月	全国信組共同センター (S K C) に加盟
平成 12 年 4 月	厚狭信用組合と対等合併し、名称を山口県信用組合に変更。 店舗数は本店・高千帆支店・船木支店・西宇部支店・厚狭支店の 5 店舗となる。 郵貯との A T M 提携サービス開始
平成 12 年 5 月	ウエスタまるき中川店出張所・A T M 開設
平成 12 年 10 月	デビットカードサービス取扱開始
平成 15 年 10 月	損害保険の窓口販売業務開始
平成 16 年 5 月	セブン銀行との A T M 利用提携開始 (セブンイレブンに設置されている同行 A T M の利用手数料無料化に参加)
平成 17 年 1 月	船木支店新築移転開店
平成 18 年 1 月	提携金融機関との A T M 相互入金業務と 他行カード振込業務の取扱開始
平成 19 年 5 月	第 5 次 S K C オンラインシステム稼働開始
平成 24 年 9 月	船木支店を廃止し、高千帆支店と統合
平成 25 年 2 月	でんさいネットの取扱開始

2 事業方針

経営理念

当組合は互いの善意と信頼によって結ばれた協同組織金融機関であることを深く認識し、常に新しい価値を創生し、広くこれを提供することによって、組合員の経済的・文化的地位の向上と、地域社会の繁栄に貢献します。

山口県信用組合が理想とする揺るぎない目標は、この地域の住民・中小企業経営者の皆さま方に対し、相互に扶助し合う精神を基本原則として健全で幸せな家庭経済生活、建設的で活発な企業経営活動等を支援し、その伸展を図ってゆくことであります。したがって当組合は皆さま方にとって地域と共に歩む、いちばん身近な「コミュニティバンク」として、親しまれ信頼され、本当にお役に立つことが当組合としても大きな喜びであり、貴重な宝であると考え、着実に節度のある経営姿勢を堅持し、努力してまいります。

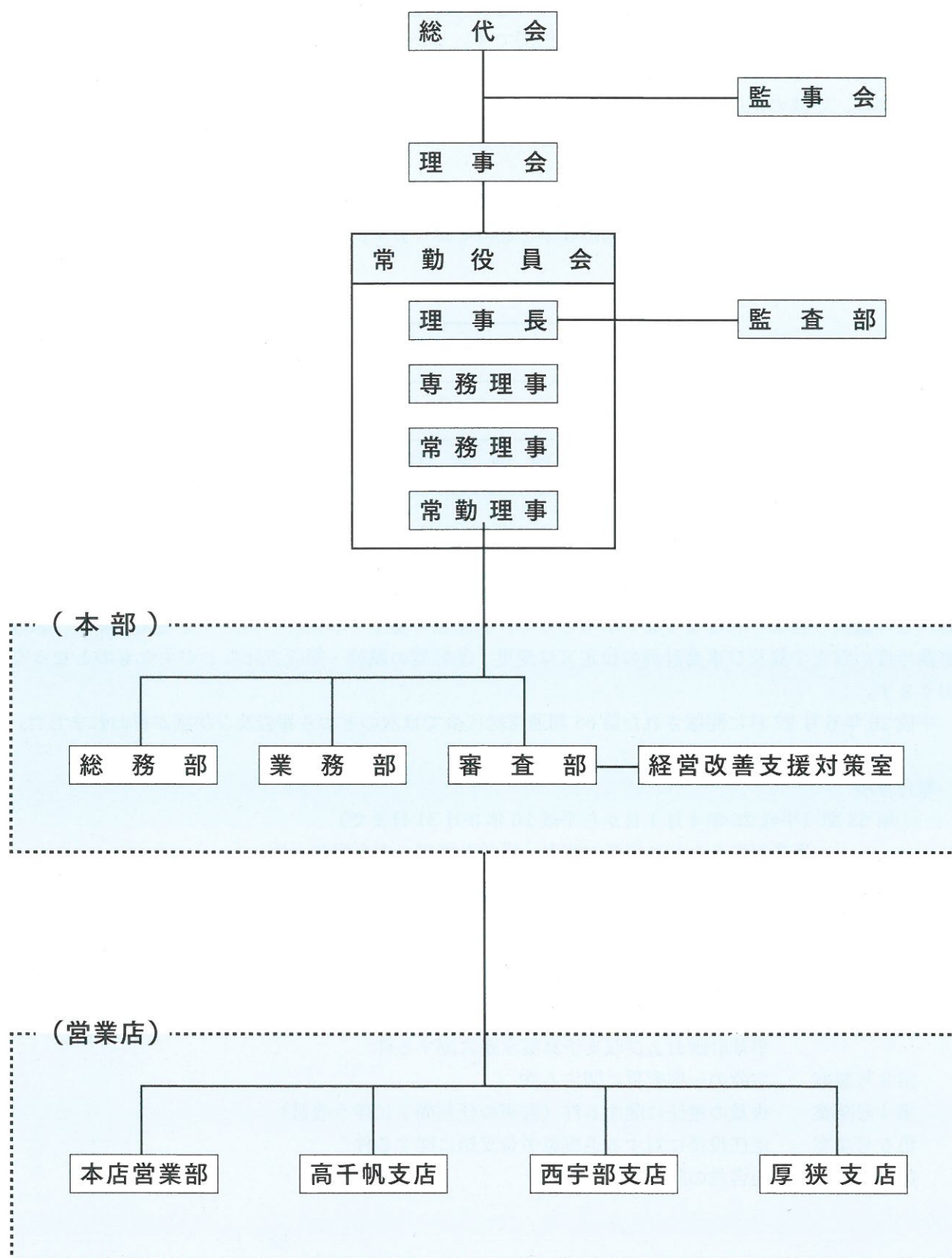
経営方針

山口県信用組合は、地域の皆さま方によって設立された中小企業協同組合法に基づく協同組合組織の金融機関です。私たちは、その使命と責任を果たすために経営の健全法を確保し、以下のことを着実に実行してまいります。

1. 当組合は、「お金」のない時代に、仲間同士が「お金」を持ち寄って助け合ったルーツを大切にし、組合員の皆さまの利益をいつまでも第一に考えます。
2. 当組合は、中小零細事業者や住民1人1人の顔がみえるキメ細やかな取引を基本として業務に取り組みます。
3. 当組合は、付き合いの積み重ねが一番大切な信用と考え、フレンドリーな金融機関を目指します。
4. 当組合は、地域社会の一員として、信用組合の持つ経営資源を活用し、地域社会の生活の質や文化の向上に積極的に取り組みます。

3

組織



4 総代会の仕組み

信用組合には、組合の意思決定機関として「総会」と総会に代わる「総代会」があります。総会は組合員全体で構成する組合の最高意思決定機関です。しかし、組合員数の多くなっている現在は、ほとんどの組合が総会に代わる総代会を設けています。

総代会は、定款の定めにより組合員数が200人を超える組合にあっては、総会に代わる総代会を設けることができることになっており、当組合の組合員は200人を超えているため総代会制を採用しております。

この総代会は、総代選挙規程の定めに基づき組合員のうちから公平に選挙で選ばれた総代で組織されており、総代の定数は110人、任期は3年と定めております。

地区毎の総代定数

本 店 地 区	50 人
高 千 帆 支 店 地 区	25 人
厚 狭 支 店 地 区	35 人

総代会には毎年1回（6月）開催される通常総代会と必要に応じて開催される臨時総代会があり、総代会の議決を経なければならない事項として、①定款の変更 ②規約の設定・変更又は廃止 ③毎事業年度の収支予算及び事業計画の設定又は変更 ④経費の賦課・徴収方法などが主なものとなっております。

平成26年6月27日に開催された第63期通常総代会では次のとおり報告及び決議が行われました。

報告事項

(1)第63期（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）

事業報告ならびに貸借対照表、損益計算書の内容報告の件

(2)監事の監査報告

決議事項

第1号議案 剰余金処分案に関する件

第2号議案 第64期（平成26年4月1日から平成27年3月31日まで）
事業計画および収支予算案承認に関する件

第3号議案 定款の一部変更に関する件

第4号議案 役員の選任に関する件（監事の任期満了に伴う改選）

第5号議案 退任役員に対する退職慰労金支給に関する件

第6号議案 組合員の除名に関する件

以 上

5 地 域 貢 献

山口県信用組合は地元の中小零細事業者や住民が組合員となって、お互いに助け合い、発展していくという相互扶助の理念に基づき運営されている協同組合組織金融機関です。

中小零細事業者や住民一人ひとりの顔が見えるキメ細やかな取引を基本としており、常に組合員の事業の発展や生活の質の向上に貢献するため、組合員の利益を第一に考えることを活動の基本としております。

また地域社会の一員として、当組合の経営資源を活用し、地域社会の生活の質や文化の向上に積極的に取り組んでおります。

1. 融資を通じた地域貢献

◇貸出先数及び金額

地域の皆さまにご利用いただいている貸出金の状況は、平成26年3月末現在で次のとおりです。

	貸 出 先 数	金 額
事 業 資 金	321 先	13,472 (内設備資金) (3,033) (内運転資金) (10,438)
住 宅 ロ ー ン	242 件	2,593
消 費 者 ロ ー ン	1,082 件	487

◇地方自治体の制度融資の取扱状況

当組合は、山口県や山陽小野田市、宇部市の中小企業向け制度融資の取扱窓口に指定されており、平成25年度現在で191件、2,410百万円のご利用をいただいております。

これらの地方自治体による制度融資は、中小企業の経営の安定強化を図るために、中小零細事業者の方が必要とされる事業資金の中で、民間金融機関では十分な融資を受けることが困難なものについて、県・市町村において、その量的・質的な補完を行う制度であり、県・市町村から預託する原資と当組合の資金とを協調して、当組合からの融資として資金を供給するものです。

「山口県中小企業制度融資」の概要

中小企業制度融資は、経営基盤強化資金、創業・新事業展開支援資金、小規模企業支援資金及び経営安定支援資金の4種に区分し、更に、資金使途や融資対象により、18種類の資金メニューとしています。中小企業制度融資を利用しようとする場合は、次の要件等を全て満たしている必要があります。

①規模の制限

中小企業制度融資の対象となる中小企業の範囲は次表のとおりです。

業 種	資本の額又は出資の総額	従業員数
製 造 業 等	3 億 円 以 下	300 人以下
卸 売 業	1 億 円 以 下	100 人以下
サ ー ビ ス 業	5 千 万 円 以 下	100 人以下
小 売 業	5 千 万 円 以 下	50 人以下

なお、次表の業種については、表中の資本の額等が適用されます。

業 種	資本の額又は出資の総額	従業員数
ゴム製品製造業	3 億 円 以 下	900 人以下
ソフトウェア業	3 億 円 以 下	300 人以下
情報処理サービス業	3 億 円 以 下	300 人以下
旅 館 業	5 千 万 円 以 下	200 人以下

②業種の制限

次の業種以外の業種が対象となります。

- | |
|--|
| 1. 農業
2. 林業（素材生産業及び素材生産サービス業を除く。）
3. 漁業
4. 金融・保険業（保険媒介代理業及び保険サービス業を除く。） |
|--|

※一部の業種によっては対象とならない場合があります。

③事業歴

圏内に事業所を有し、6ヵ月以上継続して事業を行っていることが必要です。

（資金によっては要件を緩和し、新規開業等も対象としています。）

④資金使途の制限

事業資金であることが必要です。

ただし、転売用不動産の取得と見られるものなど、資金使途によっては対象とならない場合があります。

⑤その他

事業税（個人事業税、法人事業税）の滞納がないことや、信用保証協会の求償権先でないこと等の要件があります。

山口県中小企業制度融資

平成 26 年 4 月 1 日現在

資 金 名		融 資 限 度 額 千円	融 資 利 率 ()は責任共有制度対象外の場合 年 %		保証料率 年 %	融 資 期 間 ()は据置期間 年以内	
経 営 基 盤 強 化 資 金							
産業力・観光パワーアップ資金		280,000 (運転 50,000 限度)	5 年以内 5 年超 10 年以内 10 年超	1.9 (1.7) 2.0 (1.8) 2.2 (2.0)	0.34 ~ 1.76	運転 設備	5 (1 年) 15 (2 年)
産業集積活性化資金		500,000 (運転 50,000 限度)	5 年以内 5 年超 10 年以内 10 年超	2.2 (2.0) 2.3 (2.1) 2.5 (2.3) ※保証無は()の利率に0.3%加算	0.34 ~ 1.76	運転 設備	5 (1 年) 20 (2 年)
再生可能エネルギー導入資金		280,000 (運転 50,000 限度)	5 年以内 5 年超 10 年以内 10 年超	1.9 (1.7) 2.0 (1.8) 2.2 (2.0) ※保証無は()の利率に0.3%加算	0.34 ~ 1.76	運転 設備	5 (1 年) 15 (2 年)
雇用創出支援資金		280,000 (運転 50,000 限度)	5 年以内 5 年超 10 年以内 10 年超	1.9 (1.7) 2.0 (1.8) 2.2 (2.0)	0.34 ~ 1.76	運転 設備	5 (1 年) 15 (2 年)
若年者雇用対策資金		280,000 (運転 50,000 限度)	5 年以内 5 年超	1.2 (1.0) 1.3 (1.1)	0.34 ~ 1.76		10 (2 年)
離職者緊急雇用対策資金		280,000 (運転 50,000 限度) ※短期雇用の場合、3,000万円上限	5 年以内 5 年超 10 年以内	1.2 (1.0) 1.3 (1.1)	0.34 ~ 1.76		10 (2 年)
設備投資拡大支援資金		280,000 (運転 50,000 限度)	5 年以内 5 年超 10 年以内 10 年超	2.2 (2.0) 2.3 (2.1) 2.5 (2.3)	0.34 ~ 1.76	運転 設備	5 (1 年) 15 (2 年)
事業円滑化資金		200,000 (運転 50,000 限度)	5 年以内 5 年超 10 年以内 10 年超	2.4 (2.2) 2.6 (2.4) 2.7 (2.5)	0.34 ~ 1.76	運転 設備	5 (1 年) 15 (2 年)
組合事業資金		250,000 (運転 50,000 限度)	5 年以内 5 年超	2.2 (2.0) 2.3 (2.1) ※保証無は()の利率に0.3%加算	0.34 ~ 1.76	運転 設備	5 (6 月) 10 (2 年)
創 業 ・ 新 事 業 展 開 支 援 資 金							
起 業 化 支 援 資 金	新規創業枠	20,000	5 年以内 5 年超	1.9 (1.7) 2.0 (1.8)	0.34 ~ 1.76		10 (2 年) 運転のみは 5 (1 年)
	再チャレンジ枠 (責任共有制度対象外資金)	10,000	5 年以内 5 年超	1.7 1.8	0.65		10 (2 年) 運転のみは 5 (1 年)
ベンチャー企業成長支援資金		50,000 (運転 20,000 限度)	5 年以内 5 年超	1.9 (1.7) 2.0 (1.8)	0.34 ~ 1.76	運転 設備	5 (1 年) 10 (2 年)
新事業展開等支援資金		100,000 (運転 50,000 限度)	5 年以内 5 年超	1.9 (1.7) 2.0 (1.8)	0.34 ~ 1.76	運転 設備	5 (1 年) 10 (2 年)
小 規 模 企 業 支 援 資 金							
小規模企業支援資金		25,000 (セーフティネット5号対象者 80,000)	5 年以内 5 年超	1.9 (1.7) 2.0 (1.8)	0.34 ~ 1.76	運転 設備	10 (2 年)
小規模企業支援小口資金 [責任共有制度対象外資金]		12,500	5 年以内 5 年超	1.7 1.8	0.40 ~ 1.76	運転 設備	5 (6 月) 7 (6 月)
季節資金(夏季・年末資金)							5 月 (一括)
経 営 安 定 支 援 資 金							
経 営 安 定 資 金		80,000	5 年以内 5 年超	1.9 (1.7) 2.0 (1.8)	0.34 ~ 1.76		10 (2 年)
経営支援特別資金		80,000	5 年以内 5 年超	1.9 (1.7) 2.0 (1.8)	0.34 ~ 1.76		10 (2 年)
経営力強化支援資金 [責任共有制度対象資金 (原則)]		280,000	5 年以内 5 年超	1.9 (1.7) 2.0 (1.8)	0.34 ~ 1.60	運転 設備	5 (1 年) 7 (1 年)

「山陽小野田市及び宇部市の中小企業制度融資」の概要

山陽小野田市及び宇部市の制度融資は、中小企業振興資金等下記の資金メニューを取り扱っております。

なお、これらの制度融資を利用する場合、次の要件を充たしていることが必要です。また、保証料については市が全額補助します。

- ①市内に1年以上居住し、かつ引き続き1年以上現事業の営業経歴が有ること。
(資金によっては要件を緩和し、新規事業等も対象)
- ②融資を受けようとする会社(代表者を含む)または個人が市税等を完納していること。
- ③中小企業者または小規模企業者(従業員20人以下、但し商業・サービス業の場合は5人以下)であること。

山陽小野田市中小企業制度融資

平成26年4月1日現在

資 金 名	融資限度額 千 円	融資利率 年 %	保証料率 年 %	融資期間(年以内) ()内は据置期間
中 小 企 業 振 興 資 金	10,000	1.9	0.45 ~ 1.90	運転 5 (3月) 設備 7 (6月)
独 立 開 業 資 金	5,000	1.9	0.45 ~ 1.90	運転 5 (3月) 設備 5 (3月)
連鎖倒産防止対策資金	2,500	1.7	0.45 ~ 1.90	運転のみ 5 (3月)
中小企業大型店対策資金	運転 10,000 設備 30,000	1.9	0.45 ~ 1.90	運転 5 (3月) 設備 15 (6月)
工 場 設 置 資 金	50,000	2.2	—	10 (2年)

宇部市中小企業制度融資

平成26年4月1日現在

資 金 名	融資限度額 千 円	融資利率 年 %	保証料率 年 %	融資期間(年以内) ()内は据置期間
小 規 模 特 別 資 金	(普通資金)12,500	1.8	信用保証協会 所定の率	長期運転 6 (6月)
	(開業資金)10,000	1.8		設 備 10 (1月)
	(無担保無保証人資金) 12,500	1.8		短期運転 1
中小企業経営近代化資金	20,000	1.8	信用保証協会 所定の率	設 備 10 (1月)
中小企業事業所移転資金	30,000	1.8		設 備 12 (1月)

2. 取引先への支援状況等

「ビジネスローン」 の取扱状況

地域の中小零細事業者の繁栄をお手伝いするために、平成17年4月から信用評価の低い中小零細事業者のうち、潜在能力と事業継続の可能性が有る事業者への円滑な資金供給を行うことを目的とした「けんしんビジネスローン」を取り扱っており、平成26年3月末現在で84件、573百万円のご利用をいただいております。

本ローンは山口県信用保証協会との提携商品で、資金使途は運転資金とし、融資限度は1千万円まで融資期間は5年以内としております。

なお、商工会議所から所定の推薦を受けた事業者については別途、商工会議所推薦枠1千万円の特例も利用できます。

3. 中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組状況

① 中小企業の経営支援に関する取組方針

中小企業金融円滑化法は、平成 25 年 3 月 31 日に終了しましたが、当組合では、同法の施行以前からお客様からの貸出条件の変更等の相談にはお客様の実態に即して、積極的かつ柔軟に対応し、中小零細事業者に対するコンサルティング機能の発揮に全力で取組み、地域経済の活性化に努めてきたところであります。

同法の終了後においても、当組合のお客様への取組方針は従来と変わることなく、中小零細事業者や住民一人一人の顔が見えるキメ細やかな取引を基本に、次のとおり取り組んでまいります。

- お客様からの新規融資や貸出条件の変更等に関するお申込み・ご相談に対しては、お客様が抱えている問題・課題を十分把握した上で、真摯に対応いたします。
- 他の金融機関からの借入をされているお客様から貸付条件の変更等について、お申込・ご相談があった場合には、お客様のご要望に基づき、該当する他の金融機関、政府関係金融機関、信用保証協会、中小企業再生支援協議会等の関係機関との緊密な連携関係に努めてまいります。
- 貸付条件の変更等をされたお客様の進捗状況や貸付条件変更後に、経営改善努力を行われているお客様に対して、継続的なモニタリングや経営相談・経営指導及び経営改善支援に努めてまいります。

② 中小企業の経営支援に関する態勢整備の状況

当組合は、お客様のご要望により、外部専門家である認定経営革新等支援機関の税理士法人や提携先である中小企業診断士を通じて、経営相談や計画策定支援を行っております。

③ 中小企業の経営支援に関する取組状況

- a. 創業・新規事業開拓の支援
- b. 成長段階における支援
- c. 経営改善・事業再生・業種転換等の支援

今後も認定経営革新等支援機関、税理士法人等と連携し、経営改善に向けての取り組みを行っていきます。事業再生支援取組先は 15 先です。

④ 地域活性化に関する取組状況

地域活性化の取組みとして、地元商工会議所・地元市町村・山口県信用保証協会との連携を強化するとともに、当組合の特質を活かし、各種制度融資の資金活用を図りながら、地域再生の推進に取り組んでおります。

また、中小企業診断士、認定経営革新等支援機関と連携し、地域の中小零細企業者の経営相談・

育成・支援に取組み、地域と一体となった地域経済の活性化に努めております。

なお、平成 25 年度の中小零細事業者及び住宅ローンご利用の皆様からの貸付条件の変更等に関する実績は次のとおりです。

期 間	件数	金 額
平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日	199 件	4,017 百万円

ご返済等に関するご相談窓口

お問い合わせ場所	本店及び各支店（全営業店舗）	本部・経営改善支援対策室
受 付 日	当組合の営業日	当組合の営業日
受 付 時 間	午前 9 時～午後 3 時	午前 9 時～午後 3 時
受 付 方 法	最寄りの当組合 営業店へご来店ください	電話にて受付 0836-84-3300

4. 情報提供活動

- ・情報誌「ボン・ビバーン」（2 か月に一回発刊されます）

コンセプト

信用組合の理念である「相互扶助」を踏まえ、「出会い、ふれあい、助け合い」を通じて、人と人、人と地域の絆を育む情報誌です。

誌名の由来は、フランス語で「ボン＝楽しい」、「ビバーン＝いきいきとした」を意味しています。店頭に備置き、また渉外担当者とお客様との話題提供ツールに活用しています。

- ・新たなスローガン決定

地域とともに新たな未来を

- ・FM サンサンきららのラジオコマーシャル放送開始

私どもの思いと新たなスローガンを発信しております。

是非聴いてみてください。

放送局周波数 89.7MHz

放送時間 通常一日4回（目安で日によって異なります。）

8:00~9:00、12:00~13:00

17:00~18:00、18:00~19:00

放送内容（ナレーション）

貯める、借りるは身近な信用組合で。やっぱり頼れる信用組合。

地元の皆さんに信用され愛される。

それが私たち山口県信用組合の願いです。

地域とともに新たな未来を！ 山口県信用組合

5. 〈窓口対応〉ご意見カードの備付け

当組合では、お客様からのご要望等にお応えするため、「ご意見カード」を作成し、「投書箱」を窓口を設置しております。信用組合業務に関してお困りの事や当組合へのご意見、ご要望がございましたら、ご遠慮なくお申し付けください

お客様各位

〈窓口対応〉ご意見カードのお願いについて

組合では、苦情・相談業務を充実させるために、〈窓口対応〉ご意見カードを作成いたしました。

お手元にごございますカードに、当店の窓口対応に対する素直なご意見・ご感想等、お寄せいただきたくお願い申し上げます。

また内容確認等のため、出来るだけお名前・ご住所をお書き添えてくださいますよう併せてお願い申し上げます。

なお、これに伴い、当組合の苦情・相談業務を、本部総務部でお受けすることも始めましたので、何かございましたらお気軽にお電話いただければと考えております。

今後ともお客様との出会い・ふれあいを大切にしていき、より良いサービスに努めてまいる所存でございます。

何卒、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

当組合の苦情・相談窓口 本部 総務部（本店二階）

TEL 0836-84-3300

（担当者：引藤、原野）

6. 社会・文化貢献活動

当組合は地元のための金融機関として、「地域社会の発展に貢献する」ことを経営理念に、地域行事への参加等、地域に密着した社会活動を展開しております。

◇地元のイベントや祭りへの参加



(25 年 4 月)「寝太郎まつり」に厚狭支店の職員が参加
「餅つき体験コーナー」のお手伝い



(25 年 7 月) JR 小野田駅前の「ちょうちん七夕フェスティバル」に高千支店の職員が参加「金魚すくい」、「ヨーヨー」コーナーのお手伝い



(25 年 11 月)「秋駅前ふれあい祭り」に役職員 15 名が参加「輪投げ」、「ヨーヨー」コーナーのお手伝い

◇寄付活動

○当組合は、(株)オリエントコーポレーションとの提携により、社会貢献機能を有するクレジットカード「しんくみピーターパンカード」の取扱いを行っています。

このカードはピーターパンがデザインされたカードで、お客様の買い物などのカード利用代金の 0.5% を当組合が選定した子供たちの健全育成や難病の子供たちを支援する施設や団体に寄付しております。平成 25 年度は児童養護施設「小野田陽光園」に寄付しました。



6

地域密着型金融の取組状況（25 年 4 月～ 26 年 3 月）

当組合は協同組合組織金融機関として地域密着型金融を恒久的な枠組みにより、組合員皆様の事業振興と地域活性化等を目指して、以下の枠組みを推進してまいりました。

取組項目

1. 項目	経営改善・事業再生・業種転換等の支援
2. タイトル	期間損益黒字化
3. 動機（経緯）	取引対象者は、中小零細事業者（企業）が大半であることより、事業再生対象先は収益力に応じた要償還債務年数を設定する。また、債務超過先については、債務超過解消見込年度を勘案した上での融資取組対応が地域の活性化に繋がると考えました。
4. 取組み内容	○事業再生支援取組先は 15 先です。（今年度 3 先新規追加しました。） ○経営改善支援対策室長、営業店より貸付担当役席者（専担者）をメンバーとして、中小企業診断士、取引先を交えて取引先の業況、業界の状況、財務体質の把握に努め、「事業再生計画書」の策定や見直しの支援を行い、経営相談、助言、指導等の再生支援に取り組んでいます。 ○平成 25 年 12 月に国から経営革新等支援機関の認定を受けました。
5. 成果（効果）	【相手方にとっての成果】 経営の問題点・課題を抽出することで、経営改善に向けた具体的施策内容を明確化することができ効果的な取組みが行われました。 【当組合にとっての成果】 経営改善支援取組みによる職員のレベルアップと不良債権の未然防止が図られました。
6. 26 年 3 月までの取組み状況に対する評価及び今後の課題	【評価】 景気回復の兆しがささやかれるなか、取引先中小事業者は販管費等の削減に取り組んでいるものの安定的な利益確保の体質改善までには至っておらず、今後も改善計画の見直し等を含め継続的な支援を実施します。 今後も取引先に対する一層のコンサルティング機能を発揮するため、外部機関と連携を積極的に行い、効果的・抜本的な支援を継続します。 【今後の課題】 取引先へのコンサルティング機能の発揮が取り組めるように、引き続き外部研修や内部勉強会の実施により、職員のスキルアップ等、人材の育成が課題です。

取組み実績
経営改善支援等の取組み

期初債務者数A	うち経営改善支援取組み先α				経営改善支援取組み率	ランクアップ率	再生計画策定率
		αのうち期末に債務者区分がランクアップした先数β	αのうち期末に債務者区分が変化しなかった先数γ	αのうち再生計画を策定した先数δ			
112	15	0	14	15	13.4%	0.0%	100.0%

- (注) 1. 本票の「債務者数」、「先数」は、正常先を除く計数です。
2. 期初債務者数は、平成25年4月当初の債務者数です。
3. 債務者数、経営改善支援取組み先数は、取引先企業（個人事業主を含む）であり、個人ローン、住宅ローンなどの先は含んでおりません。
4. 「αのうち期末に債務者区分がランクアップした先数β」は、当期末の債務者区分が期末よりランクアップした先です。なお、経営改善支援取組み先で期中に完済した債務者はαには含みますが、βには含んでおりません。
5. 「αのうち期末に債務者区分が変化しなかったγ」は、期末の債務者区分が期初と変化しなかった先です。
6. 「αのうち再生計画を策定した先数δ」は、αのうち、中小企業再生支援協議会の再生計画策定先、当組合独自の再生計画策定先の合計先数です。
7. 期中に新たに取引を開始した取引先は、本表に含みません。

7 リスク管理体制、法令等遵守体制

金融システム改革の進展と共に、金融機関の業務は一段と多様化、複雑化する一方で、経営上のリスクも急速に増加しております。

今や、金融機関は、従来にも増して自己責任原則に基づく経営の実践が求められ、リスク管理体制の強化、法令等遵守（コンプライアンス）体制の整備・確立が最重要課題のひとつとなっております。

こうした状況を踏まえ、当組合は、経営の健全性を確保しつつ、お客様の多様な金融ニーズに応えるため、経営体制の強化に努めております。

◆ リスク管理体制

金融機関が取扱う商品の範囲拡大や情報通信技術の発達に伴い、信用リスクや市場リスク・事務リスクなど金融機関が直面しているリスクは複雑化また多様化しております。これら業務に内在する各種リスクについて一元的に管理し、相対的に捉えて当組合の業務の健全性を確保するために、統合的なリスク管理体制の充実に努めております。

◎信用リスク管理

信用リスクとは、信用供与先の財務状況の悪化等により、資産の価値が減少または消滅し、金融機関が損失を被るリスクのことです。

当組合では、堅実な貸出業務を推進するため、自己査定を厳正に実施し、その査定結果等を考慮した貸出審査業務を行っています。

また各種商品や財務分析等の研修を行い、職員の審査能力の一層の向上を図っております。

◎市場リスク管理

市場リスクとは、資産の健全性と収益性の向上のため、特に金利変動に伴う「金利リスク」、株式や債券等の価格変動がもたらす「価格変動リスク」に重点を置き、安定した収益の確保に努めております。

また経営の健全性を向上させることを目的とした ALM（資産・負債の総合管理）システムを導入しております。

◎流動性リスク管理

流動性リスク管理とは、資金繰りに支障をきたす場合や、有価証券を売却する場合に通常の価格で取り引きが出来ない場合等に金融機関が被るリスクのことです。

当組合では、資産・負債のバランスに絶えず留意し、支払準備資産の適正な管理に努めるなど、支払準備資金の確保を図っております。

◎事務リスク管理

事務リスクとは事務上のミスや不正により損失を被るリスクのことです。

当組合では、監査部による臨店検査、及び各営業店の店内検査を毎月実施することを義務付けるなど事務処理状況の検査・指導を行い、事務能力の向上に努めるなど、事故防止に万全を期しております。

◎システムリスク管理

システムリスクとは、コンピュータシステムのダウンまたは誤作動等によるシステムの不備等や、コンピュータの不正使用により金融機関が損失を被るリスクのことです。

当組合では、平成8年からSKC（全信組共同オンライン）に加盟しておりますが、安全な運営が出来る体制の確保や、障害が発生した場合のバックアップの確保等の早期復旧が図れるように体制の整備に努めております。

◆法令等遵守体制

金融機関の社会的責任・公共性から、法令等遵守は当然のことながら経営の最重要課題として位置付け、コンプライアンスのあり方を示した「山口県信用組合行動綱領」また業務の中で遵守すべき法令・ルールを記載した「コンプライアンス・マニュアル」を制定しました。このマニュアルを全役職員に配布し、研修や職場単位で実施する勉強会などで活用してコンプライアンスの周知徹底を図り、全員がルールを守ることを基本とする企業風土の確立に努めてまいります。

行動綱領

1. (信用組合の公共的使命)

当組合は、信用組合の持つ公共的使命の重みを常に自覚し、健全な業務運営の遂行を通して揺るぎない信頼の確立を図ります。

2. (キメ細かい金融サービスの提供)

当組合は、地域経済活動を支える金融機関としての機能はもとより、創意と工夫を活かし、お客様のニーズに応えるとともに、セキュリティ・レベルにも十分配慮したきめ細かい金融サービスの提供を通じて、地域社会・地域経済の発展に貢献します。

3. (法令やルールの厳格な遵守)

当組合は、あらゆる法令やルールを厳格に遵守し、社会的規範にもとることのない、誠実かつ公正な組織運営を行います。

4. (地域社会とコミュニケーション)

当組合は、経営等の情報の積極的かつ公正な開示をはじめとして、幅広く地域社会とのコミュニケーションの充実を図ります。

5. (職員の人権の尊重等)

当組合は、職員の人権、個性を尊重するとともに、安全で働きやすい環境を確保します。

6. (環境問題への取組み)

当組合は、資源の効率的な利用や、廃棄物の削減を実践するとともに、環境保全に寄与する金融サービスを提供するなど、環境問題に積極的に取組みます。

7. (社会貢献活動への取組み)

当組合は、信用組合が地域社会の中においてこそ存続・発展しうる存在であることを自覚し、地域社会と共に歩む「良き市民」として、積極的に社会への貢献活動に取組みます。

8. (反社会的勢力との関係遮断)

当組合は、社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力は、これを断固として排除し、関係遮断を徹底する。

反社会的勢力に対する基本方針

当組合は、社会秩序や安全に脅威を与え、健全な経済・社会の発展を妨げる反社会的勢力との関係を遮断するため、以下のとおり基本方針を定め、これを遵守します。

1. 組織としての対応

当組合は、反社会的勢力による不当要求に対し、対応する職員の安全を確保しつつ組織全体として対応し、迅速な問題解決に努めます。

2. 外部専門機関との連携

当組合は、反社会的勢力による不当要求に備えて、平素から警察、暴力追放運動推進センター、弁護士などの外部専門機関と緊密な連携関係を構築します。

3. 取引の未然防止を含めた一切の関係遮断

当組合は、信用組合の社会的責任を強く認識し、その責任を組織全体で果たすため、反社会的勢力との取引の未然防止を含めた一切の関係を遮断し、反社会的勢力からの不当な要求に応じません。

4. 有事における民事と刑事の法的対応

当組合は、反社会的勢力による不当要求に対しては、民事と刑事の両面から法的対抗措置を講じる等、断固たる態度で対応します。

5. 資金提供、不適切・異例な取引及び便宜供与の禁止

当組合は、いかなる理由があっても、反社会的勢力に対して事案を隠ぺいするための資金提供、不適切・異例な取引及び便宜供与は行いません。

また、金融自由化により、各種の金融商品が販売されるにつれて、販売や勧誘をめぐるトラブルが増えていることから、「金融商品の販売等に関する法律」が平成13年4月から施行されました。この法律は、金融サービスにおける利用者（お客様）の保護を充実し、公正かつ円滑な金融取引が行える環境を整備することを目的として制定されたものです。当組合は次の「勧誘方針」を定め、適切な勧誘に努めてまいります。

「金融商品に係る勧誘方針」

当組合は、「金融商品の販売等に関する法律」に基づき、金融商品の販売等に際しては、次の事項を遵守し、適切な勧誘の確保を図ることといたします。

1. 当組合は、お客様の知識、経験、財産の状況及び当該金融商品の販売に係る契約を締結する目的に照らして、適正な情報の提供と商品説明をいたします。
2. 金融商品の選択・購入は、お客様ご自身の判断によってお決めいただきます。その際、当組合は、お客様に適正な判断をしていただくために、当該金融商品の重要事項について説明を行い、充分理解していただくよう努めます。
3. 当組合は、誠実・公正な勧誘を心掛け、お客様に対し不確実なことを断定的に申し上げたり、事実でない情報を提供するなど、お客様の誤解を招くような勧誘は行いません。
4. 当組合は、良識を持った節度ある行動により、お客様の信頼の確保に努め、お客様にとって不都合な時間帯や迷惑な場所での勧誘は行いません。
5. 当組合は、役職員に対する社内研修を充実し、金融商品に関する知識の充実をはかるとともに、適切な勧誘が行われるよう、内部管理体制の強化に努めます。
6. 金融商品の販売などに係る勧誘についてご意見やお気づきの点等がございましたら、お近くの窓口までお問い合わせください。

「経営者保証への対応方針」

当組合は、経営者保証の課題に適切に対応するため、経営者保証に関するガイドライン研究会（事務局：全国銀行協会及び日本商工会議所）が公表（平成25年12月5日）した「経営者保証に関するガイドライン」（以下、「ガイドライン」という。）を自発的に尊重し、遵守します。

今後、お客さまと保証契約を締結する場合、また、保証人のお客さまが本ガイドラインに則した保証債務の整理を申し立てられた場合は、本ガイドラインに基づき、誠実に対応し、お客さまとの継続的かつ良好な信頼関係の構築・強化に努めてまいります。

8 個人情報保護法について

個人情報保護法の全面施行に伴い、お客様の個人情報を厳格に管理し取扱うよう義務付けられました。当組合では、個人情報の利用目的を店頭に掲示し公表するとともに、個人情報保護宣言に基づき個人情報の適切な利用と厳正な管理に努めてまいります。

◆個人情報保護に係る業務内容ならびに利用目的

【業務内容】

- 預金業務、為替業務、両替業務、融資業務、外国為替業務およびこれらに付随する業務
- 投信販売業務、保険販売業務、証券仲介業務、社債業務等、法律により信用組合が営むことができる業務およびこれらに付随する業務
- その他信用組合が営むことができる業務およびこれらに付随する業務（今後取扱いが認められる業務を含む）

【利用目的】

- 各種金融商品の口座開設等、金融商品やサービスの申込の受付のため
- 「犯罪による収益の移転防止に関する法律」に基づくご本人様の確認等や、金融商品やサービスをご利用いただく資格等の確認のため
- 預金取引や融資取引等における期日管理等、継続的なお取引における管理のため
- 融資のお申込や継続的なご利用等に際しての判断のため
- 適合性の原則等に照らした判断等、金融商品やサービスの提供にかかる妥協性の判断のため
- 与信事業に際して個人情報を加盟する個人信用情報機関に提供する場合等、適切な業務の遂行に必要な範囲で第三者に提供するため
- 他の事業者等から個人情報の処理の全部または一部について委託された場合等において、委託された当該業務を適切に遂行するため
- お客様との契約や法律等に基づく権利の行使や義務の履行のため
- 市場調査ならびに、データ分析やアンケートの実施等による金融商品やサービスの研究や開発のため
- ダイレクトメールの発送等、金融商品やサービスに関する各種ご提案のため
- 提携会社等の商品やサービスの各種ご提案のため
- 各種お取引の解約やお取引解約後の事後管理のため
- お客様の安全及び財産を守るため、または防犯上の必要から、防犯カメラの映像を利用すること
- その他、お客様とのお取引を適切に円滑に履行するため

【機微情報にかかわる利用目的】

機微情報（政治的見解、信教（宗教、思想および信条をいう）、労働組合への加盟、人権及び民族、門地及び本籍他、保健医療及び性生活、並びに犯罪歴に関する情報）は、金融分野における個人情報保護に関するガイドライン（平成16年金融庁告示第67号）に掲げる場合を除き、取得、利用又は第三者提供をいたしません。又、機微情報は、協同組合による金融事業に関する法律施行規則に基づき利用目的が限定されておりますので、同規則が定める利用目的以外では利用いたしません。

【個人信用情報にかかわる利用目的】

個人信用情報機関から提供を受けた個人信用情報は、協同組合による金融事業に関する法律施行規則等に基づき限定されている目的以外では利用いたしません。

◆個人情報保護宣言（プライバシーポリシー）

当組合では、個人情報保護の重要性に鑑み、個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号）等の関係法令等（以下、法等という。）を遵守して以下の考え方に基づきお客様の情報を厳格に管理し、お客様のご希望に沿って取扱うとともに、その正確性・機密保持に努めます。

また、本保護宣言等につきましては、内容を適宜見直し改善してまいります。当組合は、この保護宣言を本支店の窓口等に掲示することにより、公表しています。

1. 個人情報の利用目的

当組合は、個人情報の保護に関する法律に基づき、お客様の個人情報を、別紙の業務内容並びに利用目的の達成に必要な範囲で利用し、それ以外の目的では、法等で認められる場合のほか、利用いたしません。

2. 個人情報の適正な取得について

当組合では、上記1. で特定した利用目的の達成に必要な範囲で、適法かつ適正な手段により、例えば、以下のような情報源から、お客様の個人情報を取得いたします。

- (1)預金口座のご新規申込みの際にお客様にご記入・ご提出いただく書類等により、直接提供していただいた情報
- (2)各地手形交換所等の共同利用客や個人信用情報機関等の第三者から提供された情報
- (3)商品やサービスの提供を通じて、お客様からお聞きした情報

3. 個人データの第三者提供

当組合は、上記1. の利用目的の範囲内で当組合が別紙に表示する第三者へ個人データを提供しております。これ以外には、次の場合を除き、お客様の同意なしにお客様の個人データを第三者へ提供いたしません。

- (1)法令等に基づき必要と判断される場合
- (2)公共の利益の為に必要であると考えられる場合

なお、お客様の個人データについて第三者提供の停止をご希望の場合は、当組合の本支店窓口までご連絡ください。

4. 個人データの委託

当組合は、上記1. の利用目的の範囲内で、例えば、以下のような場合に、個人データに関する取扱いを外部に委託することがあります。

- その場合には、適正な取扱いを確保するための契約締結、実施状況の点検など行います。
- (1)お客様にお送りするための書面の印刷または発送に関する業務を外部に委託する場合
- (2)情報システムの運用・保守に関する業務を外部に委託する場合

5. 個人データの共同利用

当組合は、上記1. の利用目的の範囲内で個人データを当組合が別紙に表示する特定の者と共同利用しております。

6. 個人データの安全管理措置に関する方針

当組合では、取扱う個人データの漏洩・滅失等の防止その他の個人データの安全管理のため、組織的安全管理措置、技術的安全管理措置を講じ、適正に管理します。また、役職員には必要な教育と監督を、業務委託先に対しては、個人データの安全管理が図られるよう必要かつ適切な監督に努めます。

7. お客様からの開示、訂正、利用停止等のご請求

(1)開示のご請求

お客様から当組合が保有するご自身に関する個人データの開示のご依頼があった場合には、原則として開示いたします。

(2)訂正等のご請求

お客様から当組合が保有するご自身に関する個人情報の訂正等（訂正・追加・削除）のご依頼があった場合には、原則として訂正等いたします。

(3)利用停止等のご請求

お客様から当組合が保有するご自身に関する個人データの利用停止等（利用停止・消去）のご依頼があった場合（法等に基づく正当な理由による。）には、原則として利用停止等いたします。

(4)ダイレクトメール等の中止

当組合は、当組合からの商品・サービスのセールスに関するダイレクトメールの送付やお電話等での勧誘のダイレクト・マーケティングで、個人情報を利用することについて、これを中止するようお客様よりお申出があった場合は、遅滞なく当該目的での個人情報の利用を中止いたします。

なお、(1)、(2)、(3)のご請求に当たっては、個人情報の重要性に鑑み、ご請求者（代理人を含む）の本人確認をさせていただきます。ご請求手続きの詳細およびご請求用紙が必要な場合は当組合本支店窓口までお申出ください。

8. ご質問・相談・苦情窓口

当組合では、お客様からのご質問に適切に取組んで参りますので、個人情報の取扱いに関するご質問等につきましては、下記の窓口にお申出ください。

本部 総務部

TEL 0836-84-3300

FAX 0836-83-7100

9

キャッシュコーナーでの犯罪防止の取組み

当組合では、お客様の大切なご預金をお守りするため、積極的にセキュリティーの強化に取り組んでいます。

◆暗証番号の変更は、当組合の ATM で簡単に変更できます。

ATM で暗証番号の変更が随時に何回でも変更できます。「生年月日」、「電話番号」、「車のナンバー」、「自宅の番地」等の他人に推測されやすい暗証番号をお使いの場合には、速やかに変更されることをお勧めします。

◆当組合の ATM には「覗き見防止フィルター」と「後方確認ミラー」を取り付けています。

ATM の操作画面に「覗き見防止フィルター」を貼っており、操作内容が覗き見されないよう、ATM をガードしています。あわせて後方確認ミラーを取り付け、お客様の安全に取り組んでいます。

◆1 日の利用限度額の設定が行えます。

お客様の口座ごとに、1 日に引き出し限度額と振込限度額が 100 万円以内で設定することができます。詳しくは営業店窓口へお問い合わせください。

◆偽造・盗難キャッシュカード被害への補償について。

当組合が定める規定に従い、被害に遭われたお客様に対して補償を行う制度を導入しております。詳しい内容は営業店窓口へお問い合わせください。

◆ATM コーナーへの盗撮用カメラに対する対応について。

当組合では、ATM コーナーに盗撮用カメラが取り付けられていないか、1 週間に 1 回点検し、お客様の安全に配慮しています。

【キャッシュカード紛失・盗難時の緊急連絡先】

受付曜日	受付時間	連絡先電話番号	連絡先名称
平日	9:00 ~ 18:00	(各お取引先店電話番号) 0836-83-2563 0836-83-2413 0836-41-0888 0836-73-0010	(お取引店名) 本店営業部 高千帆支店 西宇部支店 厚狭支店
	上記以外の時間帯	047-498-0151	信組 ATM センター (自動機集中監視センター)
土日祝	0:00 ~ 24:00	047-498-0151	信組 ATM センター (自動機集中監視センター)

10 苦情処理措置・紛争解決措置について

金融分野におけるトラブルの早期解決を図る制度として金融 ADR 制度（裁判外紛争解決制度）が導入され、平成 22 年 10 月から指定信用事業等紛争解決機関との協定の締結が義務付けられました。

当組合では、このことを踏まえて苦情処理措置および紛争解決措置を設け、金融トラブルに対し、迅速・公平・適切な対応を図り、もって当組合に対するお客様の信頼の向上に努めています。

◆苦情処理措置

ご契約内容や商品に関する相談・苦情・お問い合わせは、お取引のある営業店または下記の窓口をご利用ください。

〔窓口：総務部お客様相談室〕 電話番号 0836 - 84 - 3300

受付日：月曜日～金曜日（土・日曜日、祝日および組合の休業日は除きます。）

受付時間：午前 9 時～午後 5 時

なお、苦情対応の手続きについては、別途リーフレットを用意しておりますので営業店へお申し付け下さい。

◆紛争解決措置

広島弁護士会	仲裁センター	（電話：082-225-1600）※事前に当組合相談室にご相談下さい。
東京弁護士会	紛争解決センター	（電話：03-3581-0031）
第一東京弁護士会	仲裁センター	（電話：03-3595-8588）
第二東京弁護士会	仲裁センター	（電話：03-3581-2249）

で紛争の解決を図ることも可能ですので、ご利用を希望されるお客様は、上記の総務部お客様相談室または下記窓口までお申し出下さい。

また、お客様から各弁護士会に直接お申出いただくことも可能です。なお、前記弁護士会の仲裁センター等は、東京都以外の各地のお客様にもご利用いただけます。

〔窓口：(社)全国信用組合中央協会 しんくみ相談所〕

受付日：月曜日～金曜日（土・日曜日、祝日および協会の休業日は除きます。）

受付時間：午前 9 時～午後 5 時

電話：03-3567-2456

住所：〒104-0031 東京都中央区京橋 1-9-1（全国信用組合会館内）

◆新しい自己資本比率について

自己資本比率とは、金融機関の体力を示す指標であり、この比率が高いほど財務内容が健全で経営の安定度も高いといえます。自己資本比率の算定方法は、平成19年3月末から新BIS規制（バーゼルⅡ）が適用されたことに伴い、リスク計測の精緻化と信用リスク、市場リスクに加えてオペレーショナル・リスクが追加されました。25年度より新告示に基づきバーゼルⅢが適用され、自己資本の構成に関する事項において開示方法が変更されました。

◆自己資本の充実の状況について

(1)自己資本調達手段の概要

バーゼルⅢより、自己資本は「コア資本に係る基礎項目の額」から「コア資本に係る調整項目の額」を引いた金額となります。基礎項目とは、地域のお客様からお預かりしている出資金、期限付劣後ローン等が該当します。調整項目とは、損失吸収力に乏しいと判断される資産で無形固定資産、繰延税金資産等が該当します。なお平成25年度は経過措置により調整項目残高は発生しません。

(2)自己資本の充実度に関する評価方法の概要

地域の皆様からの普通出資金と利益金の内部留保により自己資本の充実を図っております。平成26年3月末の自己資本額は1,455百万円であり、自己資本比率は国内基準の4%を上回る8.79%となっています。今後も、事業計画に基づいた業務を推進し適切な利益を計上することにより資本の増加を図ってまいります。

(3)信用リスク管理に関する項目

①リスク管理の方針および手続きの概要

信用リスクとは、取引先の経営悪化等により、貸出金等の元金や利息の回収ができなくなり、金融機関が損失を被るリスクです。

当組合は、融資時の審査において融資先の経営状態を把握、返済財源の確保、並びに資金用途の確認などを確実に行うとともに、特定業種に偏ることのないよう徹底することにより信用リスクの回避に努め、また融資実行後においても融資先の定期的フォローアップを実施しています。これらのことは、「貸出事務取扱規程」・「信用リスク管理規程」等に定めて、役員への理解と遵守を促し、信用リスク管理のための態勢を構築しています。

また、個別案件ごとの審査とは別に、自己責任原則のもと適正な資産の自己査定を実施しております。具体的には、一次査定を営業店、二次査定を審査部及び業務部、さらに当該部署から独立した監査部において最終査定を実施し、査定内容に厳正なチェックを行ったうえで、査定結果に基づく適正な貸倒引当金の計上を行い、健全性の確保に努めております。

②リスク・ウエイトの判定に使用する適格格付機関

リスク・ウエイトの判定に使用する適格格付機関は、下記の格付機関を利用しております。なお、エクスポージャーの種類ごとに適格格付機関を使い分けることは行っておりません。

- ・ 日本格付研究所（JCR）
- ・ 格付投資情報センター（R & I）
- ・ スタンダード・amp;・プアーズ社（S & P）
- ・ ムーディーズ・ジャパン社（Moody's Japan）

(4)信用リスクの削減手法に関するリスク管理の方針および手続きの概要

当組合は、信用リスクを削減する観点から、取引先の財務状況悪化や倒産等により受ける損失を軽減するために、必要な先については不動産担保の提供や信用保証協会の保証を付けていただく等の措置を講じています。なお、これらはあくまでも補完的な措置であり、融資については、経営者の資質、財務内容、経営環境、資金使途、返済財源等について、細心の注意を払いながら判断しています。また検討した結果、担保や保証が必要な場合には、お客様へ十分な説明を行い、ご理解いただいたうえで契約するなどの適切な取扱いに努めています。

当組合が、信用リスクの削減手法として扱う主な担保には、預金積金や上場株式等があり、担保に関する手続きは、貸出事務取扱規程等により適切な事務の取扱いと、適正な評価・管理を行っています。また、取引先が期限の利益を喪失された場合には、与信取引の範囲において、貸出金等と預金を相殺する場合がありますが、当組合が定めている貸出事務取扱規程等により適切な取扱いに努めています。

なお、信用リスク削減手法の適用に伴う信用リスクの集中に関しては、業種やエクスポージャーの種類に偏ることなく分散されております。

(5)派生商品取引および長期決済期間取引の取引相手のリスクに関するリスク管理の方針および手続きの概要

派生商品取引及び長期決済期間取引は行っておりません。

(6)証券化エクスポージャーに関する事項

証券化取引は行っておりません。

(7)オペレーショナル・リスクに関する項目

①リスク管理の方針及び手続きの概要

オペレーショナル・リスクとは、日常の業務の過程において、役職員の事務処理やシステムが不適切であること、または外生的な事象により金融機関が損失を被るリスクをいいます。

当組合は、オペレーショナル・リスクについては、事務リスク、システムリスク、法務リスク、風評リスク等の各リスクを含むリスクと考えており、それぞれのリスクについて管理体制や管理方法に関するリスク管理の基本方針を定めて、リスクを認識し、また計測、評価を行っています。これらのリスクに関しては、コンプライアンス定例会等におきまして、協議、検討するとともに、必要に応じて経営陣により理事会等へ報告する態勢としております。

②オペレーショナル・リスク相当額の算出に使用する手法の名称

当組合は、基礎的手法を採用しております。

(8)銀行勘定における出資その他これに類するエクスポージャー

または株式等エクスポージャーに関するリスク管理の方針および手続きの概要

上場株式等にかかるリスクの認識については、時価評価等によるリスク計測によって把握するとともに、当組合が抱える市場リスク等の状況を定期的に理事会等へ報告しています。

非上場株式等に関しては、当組合が定める「有価証券運用基準」などに音づいた適正な運用・管理に努めております。

なお、当該取引にかかる会計処理については、当組合が定める「有価証券会計処理基準」および「金融商品会計に関する実務指針」に従った、適正な処理を行っております。

(9)銀行勘定における金利リスクに関する事項

①リスク管理の方針及び手続きの概要

金利リスクとは、市場金利の変動によって受ける資産価値の変動や将来の収益性に対する影響を指しますが、当組合は定期的に評価・計測を行い、適宜、対応を講ずる態勢にしています。

また、当組合では、一定の金利ショックを想定した場合の銀行勘定の金利リスクの計測や金利更改を勘案した期間収益シュミレーションによる収益への影響度などを証券管理システムにより定期的に計測を行い、資産・負債の最適化に向けたリスク・コントロールに努めています。なお計測の結果は理事会へ報告しています。

②内部管理上使用した銀行勘定における金利リスクの算定手法の概要

金利リスク算定のための主な前提及びリスク計測の頻度は次のとおりです。

計 測 手 法		ラダー方式を採用
コ ア 預 金	対 象	流動性預金（当座・普通・貯蓄等）
	算 定 方 法	つぎの3つのうち、最小の額を上限とする
		① 過去5年の最低残高
		② 過去5年の最大年間流出量を現残高から差し引いた残高 ③ 現残高の50%相当額
	満 期	5年以内（平均2.5年）
金 利 感 応 資 産 ・ 負 債		貸出金、有価証券、預け金、預金、その他の金利・期間を有する資産・負債
金 利 シ ョ ッ ク 幅		99パーセンタイル値または1パーセンタイル値
リ ス ク 計 測 の 頻 度		半期毎

◆新しい自己資本比率について

(1)自己資本の構成に関する事項（前年度）

（単位：百万円）

項 目	平成24年度
（ 自 己 資 本 ）	
出 資 金	309
非累積的永久優先出資	－
優先出資申込証拠金	－
資本準備金	－
その他資本剰余金	－
利益準備金	219
特別積立金	500
繰越金（当期末残高）	37
その他の	－
その他有価証券の評価差損(△)	
基 本 的 項 目 (A)	1,066
土地の再評価額と再評価の直前の帳簿価額の差額の45%相当額	－
一 般 貸 倒 引 当 金	114
負債性資本調達手段等	450
負債性資本調達手段	－
期限付劣後債務及び期限付優先出資	450
補完的項目不算入額(△)	16
補 完 的 項 目 (B)	547
自 己 資 本 総 額 [(A)+(B)] (C)	1,614
控 除 項 目 不 算 入 額(△)	－
控 除 項 目 計 (D)	－
自 己 資 本 額 [(C)-(D)] (E)	1,614
（リ ス ク・ア セ ッ ト 等）	
資 産（オン・バランス）項目	14,510
オフ・バランス取引等項目	145
オペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額	1,006
リ ス ク ・ ア セ ッ ト 等 計 (F)	15,662
単 体 T i e r 1 比 率 (A) / (F)	6.80%
単 体 自 己 資 本 比 率 (E) / (F)	10.30%

- （注） 1. 「協同組合による金融事業に関する法律第6条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用協同組合及び信用協同組合連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準」（平成18年金融庁告示第22号）に係る算式に基づき算出しております。なお、当組合は国内基準を採用しております。
2. 「その他有価証券の評価差額（△）」欄は、平成26年3月30日までの間は、平成24年金融庁告示第56号に基づく特例に従い当該金額を記載しておりません。なお、特例を考慮しない場合の金額は33百万円であります。

※単体自己資本比率については、訂正後の計数を記載しております。（訂正前の計数…別紙（P49））

(1) 自己資本の構成に関する事項 (当年度)

(単位:百万円)

項 目	平成25年度	経過措置による 不算入額
コア資本に係る基礎項目 (1)		
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額	1,086	
うち、出資金及び資本剰余金の額	312	
うち、利益剰余金の額	783	
うち、外部流出予定額(△)	9	
うち、上記以外に該当するものの額	—	
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	18	
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	18	
うち、適格引当金コア資本算入額	—	
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	350	
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の45パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	
コア資本に係る基礎項目の額 (イ)	1,455	
コア資本に係る調整項目 (2)		
無形固定資産(モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。)の額の合計額	—	1
うち、のれんに係るものの額	—	—
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るものの以外の額	—	1
繰延税金資産(一時差異に係るものを除く。)の額	—	7
適格引当金不足額	—	—
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	—	—
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	—	—
前払年金費用の額	—	—
自己保有普通出資等(純資産の部に計上されるものを除く。)の額	—	—
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	—	—
少数出資金融機関等の対象普通出資等の額	—	27
信用協同組合連合会の対象普通出資等の額	—	—
特定項目に係る10パーセント基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
うち、繰延税金資産(一時差異に係るものに限る。)に関連するものの額	—	—

特定項目に係る15パーセント基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
うち、繰延税金資産(一時差異に係るものに限る。)に関連するものの額	—	—
コア資本に係る調整項目の額 (ロ)	—	—
自己資本		
自己資本の額((イ)-(ロ)) (ハ)	1,455	
リスク・アセット等 (3)		
信用リスク・アセットの額の合計額	15,623	
資産(オン・バランス項目)	15,474	
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	△ 568	
うち、無形固定資産(のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。)	1	
うち、繰延税金資産	7	
うち、前払年金費用	—	
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	△ 605	
うち、上記以外に該当するものの額	27	
オフ・バランス等取引項目	137	
CVAリスク相当額を8%で除して得た額	11	
中央清算機関関連エクスポージャーに係る信用リスク・アセットの額	0	
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を8パーセントで除して得た額	934	
信用リスク・アセット調整額	—	
オペレーショナル・リスク相当額調整額	—	
リスク・アセット等の額の合計 (ニ)	16,558	
自己資本比率		
自己資本比率((ハ)÷(ニ))	8.79	

(注)自己資本比率の算出方法を定めた「協同組合による金融事業に関する法律第6条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用協同組合及び信用協同組合連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第22号)」が平成25年3月8日に改正され、平成26年3月31日から改正後の告示が適用されたことから、平成24年度においては旧告示に基づく開示、平成25年度においては新告示に基づく開示を行っております。

なお、当組合は国内基準を採用しております。

(2)自己資本の充実度に関する事項

(単位：百万円)

	平成24年度		平成25年度	
	リスク・アセット	所要自己資本額	リスク・アセット	所要自己資本額
イ. 信用リスク・アセット、所要自己資本の額合計	14,656	586	15,623	624
①標準的手法が適用されるポートフォリオごとのエクスポージャー	14,656	586	15,623	624
(i) ソブリン向け	45	1	202	8
(ii) 金融機関向け	1,751	70	1,118	44
(iii) 法人等向け	6,507	260	7,411	296
(iv) 中小企業等・個人向け	964	38	985	39
(v) 抵当権付住宅ローン	182	7	227	9
(vi) 不動産取得等事業向け	834	33	714	28
(vii) 三月以上延滞等	655	26	551	22
(viii) 出資等	—	—	390	15
出資等のエクスポージャー			390	15
重要な出資のエクスポージャー			—	—
(ix) 他の金融機関等の対象資本調達手段のうち対象普通出資等に該当するもの以外のものに係るエクスポージャー			1,008	40
(x) 信用協同組合連合会の対象普通出資等であってコア資本に係る調整項目の額に算入されなかった部分に係るエクスポージャー			110	4
(xi) その他	3,713	148	3,459	138
②証券化エクスポージャー	—	—	—	—
③経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの額			37	1
④他の金融機関等の対象資本調達手段に係るエクスポージャーに係る経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかったものの額			△ 605	24
⑤CVAリスク相当額を8%で除して得た額			11	0
⑥中央清算機関関連エクスポージャー			0	0
ロ. オペレーショナル・リスク	1,006	40	934	37
ハ. 単体総所要自己資本額 (イ+ロ)	15,662	626	16,558	662

- (注) 1. 所有自己資本の額＝リスク・アセットの額×4%
2. 「エクスポージャー」とは、資産（派生商品取引によるものを除く）並びにオフ・バランス取引及び派生商品取引の与信相当額です。
3. 「ソブリン」とは、中央政府、中央銀行、地方公共団体、地方公共団体金融機構、我が国の政府関係機関、土地開発公社、地方住宅供給公社、地方道路公社、外国の中央政府以外の公共部門（当該国内においてソブリン扱いになっているもの）、国際開発銀行、国際決済銀行、国際通貨基金、欧州中央銀行、欧州共同体、信用保証協会等のことです。
4. 「三月以上延滞等」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3ヵ月以上延滞している債務者に係るエクスポージャー及び「ソブリン向け」、「金融機関及び第一種金融商品取引業者向け」、「法人等向け」においてリスク・ウェイトが150%になったエクスポージャーのことです。
5. 「その他」とは、(i)～(x)に区分されないエクスポージャーです。具体的には有形・無形固定資産、信用保証協会等保証付等が含まれます。
6. オペレーショナル・リスクは、当組合は基礎的手法を採用しています。

$$\frac{\text{〈オペレーショナル・リスク（基礎的手法）の算定方法〉}}{\text{粗利益（直近3年間のうち正の値の合計額）} \times 15\%}{\text{直近3年間のうち粗利益が正の値であった年数}} \div 8\%$$

7. 単体総所要自己資本額＝単体自己資本比率の分母の額×4%

(3)信用リスクに関する事項（証券化エクスポージャーを除く）

イ．信用リスクに関するエクスポージャー及び主な種類別の期末残高

〈地域別・業種別〉

（単位：百万円）

エクスポージャー 区分 地域区分 業種区分	信用リスクエクスポージャー期末残高								三月以上延滞 エクスポージャー	
			貸出金、コミット メント及びその 他のデリバティブ 以外のオフ・バラ ンス取引		債 券		デリバティブ 取 引			
	24年度	25年度	24年度	25年度	24年度	25年度	24年度	25年度	24年度	25年度
国 内	28,732	27,005	164	147	2,099	2,740	－		1,252	855
国 外	500	905	－	－	500	905	－		－	－
地 域 別 会 計	29,232	27,911	164	147	2,599	3,646	－		1,252	855
製 造 業	2,245	2,437	27	31	800	805	－		－	－
農 業、林 業	0	－	－	－	－	－	－		－	－
漁 業	0	27	－	－	－	－	－		－	－
鉱業、採石業、砂利採取業	－	－	－	－	－	－	－		－	－
建 設 業	3,440	3,948	77	73	－	－	－		369	86
電気・ガス・熱供給・水道業	519	547	0	－	519	517	－		－	－
情 報 通 信 業	10	117	－	－	－	100	－		－	－
運輸業、郵便業	575	660	－	－	－	100	－		4	
卸売業・小売業	2,533	2,571	38	26	99	100	－		105	18
金融業、保険業	9,897	6,843	－	－	800	1,004	－		－	－
不 動 産 業	1,680	2,506	－	－	－	－	－		613	643
物 品 賃 貸 業	554	513	5	10	－	－	－		27	27
学術研究、専門・技術サービス業	8	128	0	0	－	－	－		－	27
宿 泊 業	437	306	1	－	－	－	－		0	
飲 食 業	481	500	－	－	－	－	－		－	0
生活関連サービス業、娯楽業	179	203	－	－	－	－	－		－	－
教育、学習支援業	－	－	－	－	－	－	－		－	－
医 療、福 祉	12	39	－	－	－	－	－		－	－
その他サービス	1,894	1,477	7	－	100	100	－		90	39
そ の 他 の 産 業	132	89	－	－	－	－	－		－	－
国・地方公共団体等	202	680	－	－	202	680	－		－	－
個 人	3,590	3,402	4	4	－	－	－		42	11
そ の 他	835	908	－	－	76	235	－		－	－
業 種 別 合 計	29,232	27,911	164	147	2,599	3,646	－		1,252	855

- （注） 1. 「貸出金、コミットメント及びその他のデリバティブ以外のオフ・バランス取引」とは、貸出金の期末残高の他、当座貸越等のコミットメントの与信相当額、デリバティブ取引を除くオフ・バランス取引の与信相当額の合計額です。
2. 「三月以上延滞エクスポージャー」とは、元本又は利息の支払いが約定支払日の翌日から3ヵ月以上延滞している者に係るエクスポージャーのことです。
3. 上記の「その他」は、裏付となる個々の資産の全部又は一部を把握することが困難な投資信託等および業種区分や期間区分に分類することが困難なエクスポージャーです。具体的には現金、有形・無形固定資産等が含まれています。
4. 業種別区分は、日本標準産業分類の大分類に準じて記載しております。

ロ. 一般貸倒引当金、個別貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額 (単位: 百万円)

		期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
				目的使用	その他	
一般貸倒引当金	平成24年度	115	—	—	0	114
	平成25年度	114	—	—	95	18
個別貸倒引当金	平成24年度	911	53	4	—	960
	平成25年度	960	109	292	—	777
合 計	平成24年度	1,026	53	4	0	1,075
	平成25年度	1,074	109	292	95	796

ハ. 業種別の個別貸倒引当金及び貸出金償却の残高等 (単位: 百万円)

	個 別 貸 倒 引 当 金								貸出金償却	
	期 首 残 高		当期増加額		当期減少額		期 末 残 高			
	24年度	25年度	24年度	25年度	24年度	25年度	24年度	25年度	24年度	25年度
製 造 業	261	254	—	30	6	—	254	285	—	—
農 業、林 業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
漁 業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鉱業、採石業、砂利採取業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
建 設 業	251	298	51	1	4	244	298	55	—	—
電気・ガス・熱供給・水道業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
情 報 通 信 業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
運 輸 業、郵 便 業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
卸 売 業、小 売 業	77	82	4	4	0	69	82	17	—	0
金 融 業、保 険 業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
不 動 産 業	241	260	13	97	0	1	260	356	—	—
物 品 質 貸 業	25	27	1	—	—	0	27	27	—	—
学術研究、専門・技術サービス業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
宿 泊 業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
飲 食 業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
生活関連サービス業、娯楽業	4	—	—	—	4	—	—	—	—	—
教 育、学 習 支 援 業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
医 療、福 祉	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
そ の 他 の サ ー ビ ス	29	28	—	—	1	2	28	25	—	—
そ の 他 の 産 業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
国・地方公共団体等	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
個 人	14	9	1	3	5	3	9	10	—	4
合 計	911	960	72	138	22	321	960	777	—	4

(注) 1. 当組合は、国内の限定されたエリアにて事業活動を行っているため、「地域別」の区分は省略しております。
2. 業種別区分は、日本標準産業分類の大分類に準じて記載しております。

ニ. リスク・ウェイトの区分ごとのエクスポージャーの額等

告示で定める リスク・ウェイト区分 (%)	エクスポージャーの額			
	平成24年度		平成25年度	
	格付適用有り	格付適用無し	格付適用有り	格付適用無し
0 %	100	535	—	1,041
10 %	—	3,819	—	4,102
20 %	1,206	8,306	200	5,643
35 %	—	520	—	649
50 %	927	827	1,419	479
75 %	—	1,466	—	1,458
100 %	905	10,289	804	11,392
150 %	—	328	—	302
250 %	—	—	—	417
1,250 %	—	—	—	—
自己資本控除	—	—	—	—
合計	3,138	26,094	2,425	25,485

(注) 1. 格付は、適格格付機関が付与しているものに限りです。
2. エクスポージャーは、信用リスク削減手法適用後のリスク・ウェイトに区分しています。
3. 「1,250%」欄については、自己資本比率告示の規定により、平成24年度は資本控除した額、平成25年度はリスク・ウェイト1,250%を適用したエクスポージャーの額を記載しております。

(4)信用リスク削減手法に関する事項

信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャー

(単位：百万円)

信用リスク削減手法 ポートフォリオ	適格金融資産担保		保 証		クレジット・デリバティブ	
	24年度	25年度	24年度	25年度	24年度	25年度
信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャー	729	544	74	72	—	—
① ソブリン向け	—	—	—	—	—	—
② 金融機関向け	—	—	—	—	—	—
③ 法人等向け	495	367	—	—	—	—
④ 中小企業等・個人向け	169	134	27	30	—	—
⑤ 抵当権付住宅ローン	0	—	—	—	—	—
⑥ 不動産取得等事業向け	—	10	—	—	—	—
⑦ 三月以上延滞等	—	—	3	2	—	—
⑧ 出資等	—	—	—	—	—	—
出資等のエクスポージャー	—	—	—	—	—	—
重要な出資のエクスポージャー	—	—	—	—	—	—
⑨他の金融機関等の対象資本調達手段のうち 対象普通出資等に該当するもの 以外のものに係るエクスポージャー	—	—	—	—	—	—
⑩信用協同組合連合会の対象普通出資等であってコア資本に係る調整項目の額に算入されなかった部分に係るエクスポージャー	—	—	—	—	—	—
⑪ その他	64	32	43	38	—	—

- (注) 1. 当組合は、適格金融資産担保について簡便手法を用いています。
2. 上記「保証」には、告示（平成 18 年金融庁告示第 22 号）第 45 条（信用保証協会、農業信用基金協会、漁業信用基金協会により保証されたエクスポージャー）、第 46 条（株式会社地域経済活性化支援機構等により保証されたエクスポージャー）を含みません。
3. その他とは、①～⑩に区分されないエクスポージャーです。具体的には信用保証協会等保証付等が含まれます。

(5)派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

該当ありません。

(6)証券化エクスポージャーに関する事項

該当ありません。

(7)出資等エクスポージャーに関する事項

イ. 貸借対照表計上額及び時価

区 分	平成24年度		平成25年度	
	貸借対照表計上額	時 価	貸借対照表計上額	時 価
上 場 株 式 等	223	223	326	326
非 上 場 株 式 等	112	—	112	—
合 計	336	223	439	326

(注) 投資信託等の複数の資産を裏付とするエクスポージャー（いわゆるファンド）のうち、上場・非上場の確認が困難なエクスポージャーについては、非上場株式等を含めて記載しています。

ロ. 出資等エクスポージャーの売却及び償却に伴う損益の額

(単位：百万円)

	平成 24 年度	平成 25 年度
売却益	23	41
売却損	—	—
償 却	—	—

(注) 投資信託等の複数の資産を裏付とするエクスポージャー（いわゆるファンド）にかかる売買損益は含まれておりません。

ハ. 貸借対照表で認識され、かつ、損益計算書で認識されない評価損益の額

(単位：百万円)

	平成 24 年度	平成 25 年度
評価損益	△33	0

(注) 「貸借対照表で認識され、かつ、損益計算書で認識されない評価損益の額」とは、その他有価証券の評価損益です。

ニ. 貸借対照表及び損益計算書で認識されない評価損益の額

(単位：百万円)

	平成 24 年度	平成 25 年度
評価損益	—	—

(注) 「貸借対照表及び損益計算書で認識されない評価損益の額」とは、子会社株式及び関連会社の評価損益です。

(8)金利リスクに関する事項

(単位：百万円)

	平成 24 年度	平成 25 年度
金利リスクに関して内部管理上使用した金利 ショックに対する損益・経済価値の増減額	13	75

(注) 金利リスクは、金融機関の保有する資産・負債のうち、市場金利に影響を受けるもの（例えば、貸出金、有価証券、預金等）が、金利ショックにより発生するリスク量を見るものです。当組合では、金利ショックはパーセンタイル値（保有期間1年、最低5年の観測期間で計測される金利変動の1パーセンタイル値と99パーセンタイル値によって計算される経済価値の低下額を算出する方法）を用いて金利リスクを算出しております。

12 役員一覧（理事および監事の氏名・役職名）

理事長（代表理事）	稲田 匠 美	常勤監事	隅 正 敏
専務理事（常勤）	内 山 哲 男	員外監事（非常勤）	伊 藤 紀 光
常務理事（常勤）	福 永 史 明	監 事（非常勤）	銭 谷 義 則
理事（常勤） 本店営業部長	須 田 要 輔		
理事（常勤） 業務部長	間 宮 哲 男		
理事（非常勤）	佐々木 哲 夫		
理事（非常勤）	西 川 進		
理事（非常勤）	藤 田 敏 彦		

（平成 26 年 6 月 27 日現在）

13 報酬体系について

◆対象役員

当組合における報酬体系の開示対象となる「対象役員」は、常勤理事及び常勤監事をいいます。対象役員に対する報酬等は、職務執行の対価として支払う「基本報酬」及び「賞与」、在任期間中の職務執行及び特別功勞の対価として退任時に支払う「退職慰労金」で構成されております。

（1）報酬体系の概要

【基本報酬及び賞与】

非常勤を含む全役員の基本報酬及び賞与につきましては、総代会において、理事全員及び監事全員それぞれの支払総額の最高限度額を決定しております。

そのうえで、各理事の基本報酬額につきましては役位や在任年数等を、各理事の賞与額については前年度の業績等をそれぞれ勘案し、当組合の理事会において決定しております。また、各監事の基本報酬及び賞与額につきましては、監事の協議により決定しております。

【退職慰労金】

退職慰労金につきましては、在任期間中に毎期引当金を計上し、退任時に総代会で承認を得た後、支払っております。

なお、当組合では、全役員に適用される退職慰労金の支払いに関して、主として次の事項を規定で定めております。

a. 決定方法 b. 支払手段 c. 決定時期と支払期間

(2) 役員に対する報酬

(単位：千円)

区 分	当期中の報酬支払額	総会で定められた報酬限度額
理 事	31,190	70,000
監 事	3,290	10,000
合 計	34,480	80,000

注1. 上記は、協同組合による金融事業に関する法律施行規則第15条別紙様式第4号「付属明細書」における役員に対する報酬です。

注2. 支払人数は、理事10名、監事3名です。

注3. 上記以外に支払った役員賞与金、退職慰労金はありません。
役員退職慰労金は、理事16,599千円であります。

(3) その他

「協同組合による金融事業に関する法律施行規則第69条第1項第6号等の規定に基づき、報酬等に関する事項であって、信用協同組合等の業務の運営又は財産の状況に重要な影響を与えるものとして金融庁長官が別に定めるものを定める件」(平成24年3月29日付金融庁告示第23号)第3条第1項第3号及び第5号に該当する事項はありません。

◆対象職員等

当組合における報酬体系の開示対象となる「対象職員等」は、当組合の非常勤役員、当組合の職員であって、対象役員が受ける報酬等と同等額以上の報酬等を受ける者のうち、当組合の業務及び財産の状況に重要な影響を与える者をいいます。

なお、平成25年度において、対象職員等に該当する者はいませんでした。

注1. 対象職員等には、期中に退職した者を含めております。

注2. 「同等額」は、平成24年度に対象役員に支払った報酬等の平均額としております。

注3. 当組合の職員の給与、賞与及び退職金は当組合における「給与規程」及び「退職給与規程」に基づき支払っております。

なお、当組合は、非営利・相互扶助の協同組合組織の金融機関であり、業績連動型の報酬体系のような自社の利益を上げることや株価を上げることによって動機づけられた報酬となっていないため、職員が過度なリスクテイクを引き起こす報酬体系はありません。

14

組合員の推移

(単位：人)

区 分	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
個 人	5,722	5,674	5,616	5,553	5,575
法 人	583	576	569	577	579
合 計	6,305	6,250	6,185	6,130	6,154

15 営業地区と店舗配置

(1) 営業地区

山陽小野田市・宇部市・美祢市・山口市（旧吉敷郡に限る）

(2) 店舗配置

現在の店舗配置は、次のとおり4店舗となっております。

店舗の名称	所在地	電話番号	FAX番号
本部	山陽小野田市中央一丁目2番40号	(代) 0836-84-3300	0836-83-7100
本店営業部	同上	(代) 0836-83-2563	0836-83-6900
高千帆支店	山陽小野田市日の出三丁目8番3号	(代) 0836-83-2413	0836-83-7588
西宇部支店	宇部市西宇部南三丁目2番28号	(代) 0836-41-0888	0836-41-0457
厚狭支店	山陽小野田市厚狭一丁目2番22号	(代) 0836-73-0010	0836-72-2149

(3) 店舗外キャッシュコーナー（2出張所）

出張所の名称	所在地	ATMご利用時間
ウェスタまるき中川店出張所	山陽小野田市中川二丁目6633番地1	平日9:30~18:00 土曜日9:30~17:00 日曜・祝日9:30~17:00
埴生出張所	山陽小野田市埴生（ドライブインみちしお横）	平日8:00~20:00 土曜日9:00~17:00 日曜・祝日9:00~17:00

キャッシュカードのご利用の皆さま（個人）全員！

セブン-イレブンでのご利用は0円

■セブン-イレブンATMご利用無料の時間帯

お引出し ご入金 残高照会	8:00	8:45	18:00	22:00
月～金曜日	108円	0円	108円	108円
土曜日	108円	0円	108円	108円
日曜日	108円	108円	108円	108円

■残高照会は無料です。■時間外、日祝日等のご利用は108円の手数料が必要です。

①現金支払
②現金入金
③残高照会
利用手数料は

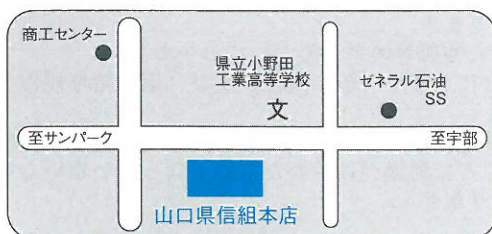
0円

有料となる時間帯も
ございます。

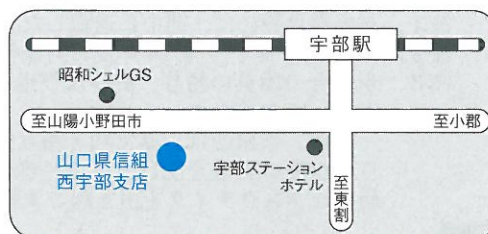
*土曜日の上記手数料無料時間帯は9時から14時です。

◎本部・営業店舗の所在地

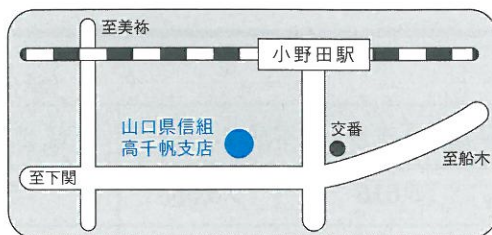
本部・本店



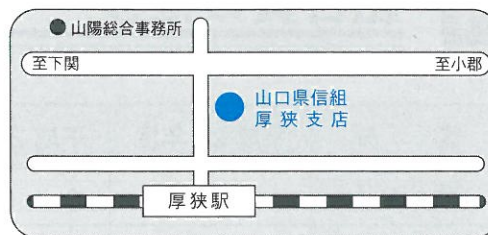
西宇部支店



高千帆支店



厚狭支店



当組合設置ATMは全台ハンドセット方式を採用し、利便性の向上に努めております。

◆ 預 金 ・ 積 金

種 類	お預入期間	お預入金額	特 色
総 合 口 座	自 由	1 円 以上	普通預金と定期預金・自動融資がセットになっており、資金を有利に運用しながら、いざというとき便利な預金です。 なお、自動融資は定期預金の90%（最高200万円までご利用いただけます）までです。
普 通 預 金	自 由	1 円 以上	ご家庭のサイフ代わりにおつかいください。給与振込みや公共料金等の自動支払もできます。
無利息型普通預金 （決済用預金）	自 由	1 円 以上	「総合口座」「普通預金」と同じ機能を持ち、お利息はつきませんが預金保険制度により全額保護されています。
貯 蓄 預 金	自 由	1 円 以上	基準残高に応じて金利が変動し、定期預金なみの高利回りとなっております。
当 座 預 金	自 由	1 円 以上	事業者の支払いに便利な小切手・手形を利用する預金です。
通 知 預 金	7 日 以上	5,000 円 以上	まとまった資金の短期運用に便利、お引出しは2日前までにご連絡ください。
納 税 準 備 預 金	入金は自由、お支払いは納税時	1 円 以上	納税のための預金です。普通預金よりも利息が高く、また、お利息は非課税です。
定 期 預 金	スーパー定期	1 ヶ月～5 年	まとまった資金を一番有利に運用する預金です。総合口座にセットすることができます。6 カ月毎に金利の変わる変動金利型もあります。
	スーパー定期	1 ヶ月～5 年	
	大口定期	1 ヶ月～5 年	
	期日指定定期	3 年	
	変動金利定期	3 年	
積 立 定 期 預 金	1 年～5 年	100 円 以上	（いつでも自由）目標に向かって計画的かつ有利に積立できます。
定 期 積 金	1 年～5 年	100 円 以上	毎月きまった金額を積立て、財産の貯蓄に便利です。

※預金等の保護について

金融機関が万一破綻した場合に、預金保険で保護される預金等の額は、「無利息、要求払い、決済サービスの提供」という3つの要件を全て満たす決済用預金に該当するものは全額、それ以外の預金等については1金融機関ごとに預金者1人当たり元本1,000万円までとその利息等です。

預 金 等 の 分 類		保護の範囲
決済用預金	当座預金・利息のつかない普通預金等	全額保護
一般預金等	利息のつく普通預金・定期預金・貯蓄預金・通知預金・定期積金・納税準備預金等	元本1,000万円までとその利息等保護
外貨預金・譲渡性預金等		保護対象外

◆ 各種サービス

種 類	内 容
自 動 預 払 A T M	カード一枚でお引き出しができます。ATMは通帳でのお預け入れもできます。本店・高千帆支店・西字部支店・厚狭支店及びウエスタまるき中川店・埴生（みちしお）の店舗外キャッシュコーナーでご利用できます。
デビットカードサービス	ジェイデビットのマークのある加盟店で、お手持ちのキャッシュカードによりお買い物の支払いができます。
キャッシュ・サービス	キャッシュカード一枚で、全国のMICS加盟金融機関及び郵便局またセブンイレブン等でお引き出しできます。
ク レ ジ ャ ッ ト カ ー ド	ピーターパンカード、JCB、UFJ、DC、VISA等各種クレジットのお取扱い。
給 与 振 込	お給料、ボーナスの自動受け取り。
年 金 振 込	あなたの年金が指定した口座に自動的に入金されます。
貸 金 庫	重要書類、貴重品等を安全にお守りします。秘密保持も万全です。
夜 間 金 庫	お店の売上金の盗難防止に役立ちます。
自動支払いサービス	公共料金、税金、クレジット等の自動支払いです。
為 替 サ ー ビ ス	全国どこへでもスピーディーなお振込みができます。
株 式 等 払 い 込 み	会社設立、増資の払い込みのお取扱い。
でんさいネットサービス	手形・振込に代わる新しい資金決済サービスです。窓口でご相談下さい。
火 災 保 険 の 窓 販	住宅ローンに関連した長期火災保険の取扱いをしております。

◆個人ローン

種 類	資金のお使い道	ご融資金額	ご融資期間	担保・保証人
住 宅 ロ ー ン	住宅の購入・新築・建替え・増改築・住宅予定地の購入・住宅資金の借換資金	10万円以上 6千円以内	35年以内	土地・建物・保証人1名以上 (保証会社の保証の場合、 保証人不要)
山陽小野田市 水洗便所改造資金	水洗便所改造資金 (山陽小野田市の斡旋者対象)	10万円以上で 市が指定した額	60ヵ月以内	担保・保証人不要
宇部市下水道 排水設備整備資金	下水道排水設備整備資金 (宇部市の斡旋者対象)	10万円以上 60万円以内	60ヵ月以内	保証会社の保証
フ リ ー ロ ー ン	ご自由 (事業性資金、旧償返済資金は除く)	10万円以上 300万円以内	7年以内	保証会社の保証
シルバーライフローン	ご自由 (事業性資金、旧償返済資金は除く)	10万円以上 100万円以内	5年以内	保証会社の保証
しんくみパートナーズ	個人事業者向け事業資金	50万円以上 500万円以内	5年以内	保証会社の保証
カ ー ド ロ ー ン	ご自由 (事業性資金、旧償返済資金は除く)	10万円以上 300万円以内	3年 原則として自動更新	保証会社の保証
リフォームローン	自宅の改築・改装資金	10万円以上 500万円以内	6ヵ月以上 10年以内	保証会社の保証
リフォームローン・ワイド	リフォーム関連資金・リフォーム 資金に関するローンの借換資金	100万円以上 1千万円以内	6ヵ月以上 15年以内	保証会社の保証
カーライフローン	車両購入・修理・車検・運転 免許取得資金	10万円以上 500万円以内	6ヵ月以上 7年以内	保証会社の保証
奨 学 ロ ー ン	入学金・授業料・アパート代 等の費用	10万円以上 300万円以内	6ヵ月以上 9年以内	保証会社の保証
ス ー パ ー 30 (当座貸越)	ご自由 (事業性資金、旧償返済資金は除く)	30万円以内	3年 原則として自動更新	保証会社の保証
ス ー パ ー 50 (当座貸越)	ご自由 (事業性資金、旧償返済資金は除く)	50万円以内	3年 原則として自動更新	保証会社の保証
スーパーフリーローン	ご自由(旧償借換資金も利用可) 但し、事業性資金は除く	10万円以上 300万円以内	6ヵ月以上 10年以内	保証会社の保証
スーパークイックローン	ご自由 (事業性資金、旧償借換資金も利用可)	10万円以上 100万円以内	6ヵ月以上 5年以内	保証会社の保証
スピードローン	ご自由 (事業性資金、旧償借換資金も利用可)	10万円以上 300万円以内	6ヵ月以上 7年以内	保証会社の保証
国の教育ローン (日本政策金融公庫代理貸付)	学校教育法等に定める教育施 設に入学・在学に要する費用	200万円以内	10年以内	(財)教育資金融資保証基金 または保証人1名

(注) 金利は各制度により異なり、また、金融情勢により変更されますので省略してあります。

なお、詳細は窓口でご相談ください。

◆事業者向け融資

種 類	内 容
一 般 融 資	1. 手形割引……………一般商業手形の割引 2. 手形貸付……………運転資金等短期のご融資 3. 証書貸付……………設備資金等長期のご融資 4. 当座貸越……………一定の極度まで繰り返し自由にご利用可能
県・市制度融資	山口県、山陽小野田市、宇部市の各制度融資を取り扱っております。
代 理 貸 付	日本政策金融公庫、商工中金、全国信用協同組合連合会、中小企業基盤整備機構等の貸 付け取扱い窓口として代理業務を取扱っております。

(注) 事業に必要な資金は、どんなことでもご相談ください。

17 手数料の一覧

◆主な手数料

振込	他行宛	電信扱い	3万円未満	648円
			3万円以上	864円
	当組合本支店宛		3万円未満	324円
			3万円以上	540円
	同一店舗		3万円未満	216円
			3万円以上	432円
	給与振込	当組合同一店舗・本支店宛		無料
		他行宛	3万円未満	648円
カード振込			3万円以上	864円
	他行宛		3万円未満	324円
			3万円以上	540円
	当組合本支店宛		3万円未満	108円
			3万円以上	216円
	同一店舗			無料
	取立	他行宛	貸出に係るもの	864円
			上記以外のもの	648円
同一交換区域内の手形・小切手（本支店のものは除く）		216円		
その他	送金・振込組戻料（本支店間も含む）		1,080円	
	取立手形（組戻料・不渡返却料・店頭呈示料）		1,080円	
通帳・証書・キャッシュカード再発行手数料			(1件)	1,080円
出資証券再発行手数料			(1枚)	1,080円
自己宛小切手発行手数料			(1枚)	540円
残高証明書発行手数料		所定のもの	(1通)	540円
		所定外のもの	(1通)	1,080円
支払利息証明書発行手数料			(1通)	1,080円
預金・融資（履歴・明細）発行手数料			(1件)	540円
各種調査資料作成手数料			(1枚)	540円(2枚目以降はプラス108円)
当座小切手帳			(1冊:50枚)	864円
約束手形帳			(1冊:50枚)	1,080円
為替手形帳			(1冊:50枚)	1,080円
普通・当座入金帳			(1冊)	1,080円
マル専口座開設料			(1件)	3,240円
マル専約束手形用紙			(1枚)	540円
CD/ATM他行間利用手数料				108円
CD/ATM延長時間帯および土曜日・日曜日・祝日利用手数料				108円
株式・出資払込事務取扱手数料			(払込金額の3/1,000)×108	
返済予定表再発行手数料			(1件)	1,080円
融資証明書発行手数料			(1通)	(証明金額の2/10,000)×108
不動産担保取扱手数料（新規設定事務）3千万円以上			(1件)	54,000円
〃（〃）1千万円以上			(1件)	32,400円
〃（〃）1千万円未満			(1件)	16,200円
〃（追加設定事務）			(1件)	16,200円
〃（極度変更事務）			(1件)	16,200円
〃（順位変更事務）			(1件)	16,200円
〃（一部抹消事務（事業用不動産））			(1件)	16,200円
住宅ローン返済条件変更等手数料（一部繰上返済）			(1件)	3,240円
〃（全額繰上返済）			(1件)	5,400円
各種貸出金の条件変更手数料			(1件)	10,800円
貸金庫使用料			大型1年間	8,640円
夜間金庫使用料			小型1年間	5,400円
			使用料月額	6,480円
窓口両替手数料		301枚～1,000枚		540円
		1,001枚以上		1,080円
両替持参手数料		50万円未満	1回につき	540円
		50万円以上	1回につき	864円
硬貨入金手数料		1,000枚以上		216円

（上記の手数料には消費税を含んでいます）

資 料 編

独立監査人の監査報告書

平成25年5月27日

山口県信用組合
理事長 御中

有限責任監査法人 トーマツ

有限責任監査法人 代表社員 竹之内 高司
有限責任監査法人 代表社員 伊藤 次男

当監査法人は、協同組合による金融事業に関する法律第5条の8第3項の規定に基づき、山口県信用組合の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第63期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、剰余金処分計算書及びその附属明細書について監査を行った。

計算書類等に対する監査者の責任
経営者の責任は、協同組合による金融事業に関する法律及び同施行規則並びに我が国において一般に公正妥当と認められる会計の慣行に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任
当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の基礎に置いて、適切に設計した適切な監査手続を実施するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見
当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、協同組合による金融事業に関する法律及び同施行規則並びに我が国において一般に公正妥当と認められる会計の慣行に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係
組合と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

代表理事による財務諸表の適正性・有効性の確認

私は当組合の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第63期事業年度における貸借対照表、損益計算書及び剰余金処分計算書の適正性、及び同書類作成に係る内部監査の有効性を確認いたしました。

平成26年6月30日

山口県信用組合

理事長 稲田 匠美

会計監査人による監査

「協同組合による金融事業に関する法律」(協金法) 第5条の8第3項の規定に基づき有限責任監査法人トーマツの監査を受けています。

代表理事による適正性・有効性の確認

平成18年3月期以降の決算期に係るディスクロージャー誌に、代表理事が「直近の事業年度における財務諸表の適正性および財務諸表作成に係る内部監査の有効性を確認している旨」を記載することになりました。

経 理 ・ 経 営 内 容

1. 貸借対照表

(単位:千円)

◆資産の部

科 目	平成24年度	平成25年度
(資産の部)		
現 金	431,800	395,016
預 け 金	8,727,064	5,568,411
有 価 証 券	2,825,691	3,962,721
国 債	102,963	581,650
社 債	1,919,190	1,915,695
株 式	226,240	329,305
そ の 他 の 証 券	577,298	1,136,068
貸 出 金	16,582,399	17,390,864
割 引 手 形	370,146	305,292
手 形 貸 付	3,507,139	3,162,766
証 書 貸 付	11,430,707	12,489,037
当 座 貸 越	1,274,405	1,433,767
そ の 他 資 産	214,439	187,619
未 決 済 為 替 貸	1,603	599
全 信 組 連 出 資 金	110,000	110,000
未 収 収 益	52,083	40,694
そ の 他 の 資 産	50,752	36,325
有 形 固 定 資 産	260,591	234,275
建 物	93,915	72,997
土 地	114,606	114,606
その他の有形固定資産	52,069	46,671
無 形 固 定 資 産	2,805	2,489
ソ フ ト ウ ェ ア	921	605
その他の無形固定資産	1,883	1,883
繰 延 税 金 資 産	23,520	21,252
債 務 保 証 見 返	164,119	147,828
貸 倒 引 当 金	△1,075,010	△796,555
(うち個別貸倒引当金)	(△ 960,768)	(△ 777,861)
資 産 の 部 合 計	28,157,422	27,113,923

◆負債及び純資産の部

科 目	平成24年度	平成25年度
(負債の部)		
預 金 積 金	26,323,772	25,366,482
当 座 預 金	130,945	96,035
普 通 預 金	6,968,338	7,208,972
貯 蓄 預 金	2,641,867	2,550,157
通 知 預 金	6,000	—
定 期 預 金	15,472,585	14,813,865
定 期 積 金	1,054,434	609,880
そ の 他 の 預 金	59,601	87,570
借 用 金	450,000	350,000
借 入 金	450,000	350,000
そ の 他 負 債	73,437	68,320
未 決 済 為 替 借	9,048	8,203
未 払 費 用	33,755	30,792
給 付 補 填 備 金	3,029	666
未 払 法 人 税 等	456	456
前 受 収 益	19,675	22,872
払 戻 未 済 金	35	225
そ の 他 の 負 債	7,435	5,104
賞 与 引 当 金	10,653	10,033
退 職 給 付 引 当 金	28,531	26,306
役員退職慰労引当金	26,031	9,431
偶 発 損 失 引 当 金	39,860	40,186
債 務 保 証	164,119	147,828
負 債 の 部 合 計	27,116,405	26,018,588
(純資産の部)		
出 資 金	309,719	312,949
普 通 出 資 金	309,719	312,949
利 益 剰 余 金	764,391	783,156
利 益 準 備 金	209,659	219,659
その他利益剰余金	554,732	563,497
特 別 積 立 金	500,000	500,000
当期末処分剰余金 (又は当期末処理損失金)	54,732	63,497
組 合 員 勘 定 合 計	1,074,110	1,096,105
その他有価証券評価差額金	△ 33,093	△ 770
評価・換算差額等合計	△ 33,093	△ 770
純 資 産 の 部 合 計	1,041,016	1,095,335
負債及び純資産の部合計	28,157,422	27,113,923

(注) 金額は、単位未満を切り捨てて表示しております。以下の各表における金額についても同様であります。

(貸借対照表の注意事項)

1. 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。なお、以下の注記については、表示単位未満を切り捨てて表示しております。
2. 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、その他有価証券のうち時価のあるものについては事業年度末の市場価格等に基づく時価法（売却原価は移動平均法により算定）、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法により行っております。なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。
3. 有形固定資産（リース資産を除く）の減価償却は、定率法（ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物（建物付属設備を除く）については定額法）を採用しております。また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建 物	3年～50年
その他	3年～30年

4. 無形固定資産（リース資産を除く）の減価償却は定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、当組合内における利用可能期間（5年）に基づいて償却しております。
5. 貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

「銀行等金融機関の資産の自己査定並びに貸倒償却及び貸倒引当金の監査に関する実務指針」（日本公認会計士協会・銀行等監査特別委員会報告第4号）に規定する正常先債権及び要注意先債権に相当する債権については、一定の種類毎に分類し、過去の一定期間における各々の貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき引当てております。破綻懸念先債権に相当する債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち必要と認める額を引当てております。破綻先債権及び実質破綻先債権に相当する債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額を引当てております。

全ての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署の協力の下に資産査定部署が資産査定を実施しており、その査定結果により上記の引当を行っております。

また、正常先及び要注意先債権に係る信用保証協会の責任共有制度による負担金の将来における支出に備えるため、将来の負担金支出見込額を引当てております。

6. 借入金は、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金であります。
7. 賞与引当金は、職員への賞与の支払いに備えるため、職員に対する賞与の支給見込額のうち、当事業年度に帰属する額を計上しております。
8. 退職給付引当金は、職員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資金の見込額に基づき、必要額を計上しております。

なお、当組合は、複数事業主（信用組合等）により設立された企業年金制度（総合型厚生年金基金）を採用しております。当該企業年金制度に関する事項は次のとおりです。

（1）制度全体の積立状況に関する事項（25年3月31日現在）

年金資産の額	320,555百万円
年金財政計算上の給付債務の額	321,338百万円

差引額

△782百万円

(2) 制度全体に占める当組合の掛金拠出割合

(平成24年4月分～平成25年3月分) 0.240%

(3) 補足説明

上記(1)の差引額の要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高31,358百万円及び別途積立金30,576百万円であります。本制度における過去勤務債務の償却方法は期間19年の元利均等償却であり、当組合は当事業年度の計算書類上、特別掛金4百万円を費用処理しております。

9. 役員退職慰労引当金は、役員への退職慰労金の支払いに備えるため、役員に対する退職慰労金の支給見込額のうち、当事業年度末までに発生していると認められる額を計上しております。
10. 偶発損失引当金は、破綻懸念先以下の債権に係る信用保証協会の責任共有制度による負担金の将来における支出に備えるため、将来の負担金支出見込額を計上しております。
11. 消費税及び地方消費税の会計処理は、税込方式によっております。
12. 理事及び監事との間の取引による理事及び監事に対する金銭債権総額 1,122百万円
13. 有形固定資産の減価償却累計額 606百万円
14. 貸出金のうち、破綻先債権額は36百万円であります。
なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払いの遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込がないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。
15. 貸出金のうち、延滞債権額は1,933百万円であります。
なお、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払いを猶予した貸出金以外の貸出金であります。
16. 貸出金のうち、3か月以上延滞債権額は3百万円であります。
なお、3か月以上延滞債権とは、元本又は利息支払いが約定支払日の翌日から3か月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。
17. 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は28百万円であります。
なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3か月以上延滞債権に該当しないものであります。
18. 破綻先債権額、延滞債権額、3か月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は2,001百万円であります。
なお、14.から18.に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。
19. 貸借対照表に計上した有形固定資産のほか、パソコン・ファクシミリ・複写機について、リース契約により使用しています。
20. 手形割引により取得した商業手形の額面金額は、305百万円であります。
21. 公金取扱い、手形交換取引のために預け金1百万円を担保提供しております。
上記のほか、為替取引、全国信用組合保障基金及び全国信用協同組合連合会との当座貸越契約のために預け金1,382百万円を担保として提供しておりますが、これらに対応する債務はありません。

22. 出資1口当たりの純資産額は1,750円02銭です。

23. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当組合は、預金業務、融資業務及び市場運用業務などの金融業務を行っております。

このため、金利変動による不利な影響が生じないように、資産及び負債の総合的管理（ALM）をしております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

当組合が保有する金融資産は、主として事業地区内のお客様に対する貸出金です。

また、有価証券は、主に債券、投資信託及び株式であり、満期保有目的、純投資目的及び事業推進目的で保有しております。

これらは、それぞれ発行体の信用リスク及び金利の変動リスク、市場価格の変動リスクにさらされております。

一方、金融負債は主としてお客様からの預金であり、流動性リスクにさらされております。

また、変動金利の預金については、金利の変動リスクにさらされております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスクの管理

当組合は、貸出事務取扱規程及び信用リスクに関する管理諸規程に従い、貸出金について、個別案件ごとの与信審査、与信限度額、信用情報管理、保証や担保の設定、問題債権への対応など信用管理に関する体制を整備し運営しております。

これらの与信管理は、各営業店のほか審査部により行われ、また、定期的に常勤役員会や理事会を開催し、審議・報告を行っております。

さらに、与信管理の状況については、監査部がチェックしております。

有価証券の発行体の信用リスクに関しては、総務部において、信用情報や時価の把握を定期的に行うことで管理しております。

② 市場リスクの管理

(i) 金利リスクの管理

当組合では、一定の金利ショックを想定した場合の金融商品の金利リスクの計測や金利更改を勘案した期間収益シミュレーションによる収益への影響度などを管理システムにより定期的に計測を行い、資産・負債の最適化に向けたリスク・コントロールに努めています。なお、計測の結果は理事会へ報告しています。

(ii) 価格変動リスクの管理

有価証券を含む市場運用商品の保有については、常勤役員会の方針に基づき、理事会の監督の下、有価証券運用規程に従い行われております。

このうち、総務部では、市場運用商品の購入を行っており、事前審査、投資限度額の設定のほか、継続的なモニタリングを通じて、価格変動リスクの軽減を図っております。

総務部で保有している株式は、純投資目的又は事業推進目的で保有しているものであり、取引先の市場環境や財務状況などをモニタリングしています。

これらの情報は総務部を通じ、理事会において定期的に報告されております。

(iii) 市場リスクに係る定量的情報

当組合において、主要なリスク変数である金利リスクの影響を受ける主たる金融商品は、「預け金」、「有価証券」のうち債券、「貸出金」、「預金積金」、「借用金」であります。

当組合では、これらの金融資産及び金融負債について、保有期間1年、過去5年の観測期間で計測される99パーセンタイル値を用いた経済価値の変動額を市場リスク量とし、金利の変動リスクの管理にあたっての定量的分析に利用しております。

当該変動額の算定にあたっては、対象の金融資産及び金融負債を（固定金利群と変動金利群に分けて）それぞれ金利期日に応じて適切な期間に残高を分解し、期間ごとの金利変動幅を用いております。

なお、当事業年度末現在、金利以外のすべてのリスク変数が一定であると仮定した場合の99パーセンタイル値を用いた経済価値は75百万円減少するものと把握しております。

当該変動額は、金利を除くリスク変数が一定の場合を前提としており、金利とその他のリスク変数との相関を考慮しておりません。

また、金利の合理的な予想変動幅を超える変動が生じた場合には、算定額を超える影響が生じる可能性があります。

③ 資金調達に係る流動性リスクの管理

当組合は、ALMを通して、適時に資金管理を行うほか、資金調達手段の多様化、市場環境を考慮した長短の調達バランスの調整などによって、流動性リスクを管理しております。

（4）金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

なお、一部の金融商品については、簡便な計算により算出した時価に代わる金額を含めて開示しております。

24. 金融商品の時価等に関する事項

平成26年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる非上場株式等は、次表には含めておりません。（（注2）参照）。

また、重要性の乏しい科目については記載を省略しております。

（単位：百万円）

	貸借対照表 計上額	時 価	差 額
(1) 預け金 (*1)	5,568	5,592	23
(2) 有価証券	3,960	3,999	39
満期保有目的の債券	2,395	2,434	39
その他有価証券	1,565	1,565	—
(3) 貸出金 (*1)	17,390		
貸倒引当金 (*2)	△796		
	16,594	17,034	439
金融資産計	26,123	26,626	502
(1) 預金積立 (*1)	25,366	25,380	13
(2) 借入金 (*2)	350	350	—
金融負債計	25,716	25,730	13

(*1) 預け金、貸出金、預金積金、借入金の「時価」には、「簡便な計算により算出した時価に代わる金額」が含まれております。

(*2) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。

(注1) 金融商品の時価等の算定方法

金融資産

(1) 預け金

満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。満期のある預け金については、市場金利で割り引くことで現在価値を算定し、当該現在価値を時価とみなしております。

(2) 有価証券

株式は取引所の価格、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。投資信託は、公表されている基準価格によっております。

なお、保有目的区分ごとの有価証券に関する注記事項については、25. から 28. に記載しております。

(3) 貸出金

貸出金は、以下の①～②の合計額から、貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除する方法により算定し、その算出結果を簡便な方法により算出した時価に代わる金額として記載しております。

- ① 6 カ月以上延滞債権等、将来キャッシュ・フローの見積りが困難な債権については、その貸借対照表の貸出金勘定に計上している額（貸倒引当金控除前の額）。
- ② ①以外は、貸出金の種類ごとにキャッシュ・フローを作成し、元利金の合計額を市場金利（LIBOR、SWAP 等）で割り引いた価額を時価とみなしております。

金融負債

(1) 預金積金

要求払預金については、決算日に要求された場合の支払額（帳簿価額）を時価とみなしております。定期預金の時価は、一定の金額帯及び期間帯ごとに将来キャッシュ・フローを作成し、元利金の合計額を一種類の市場金利（LIBOR）で割り引いた価額を時価とみなしております。

(2) 借入金

借入金については、帳簿価額を時価としております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品は次のとおりであり、金融商品の時価情報には含まれておりません。

(単位：百万円)

区 分	貸借対照表計上額
非上場株式 (*1)	2

(*1) 非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象とはしておりません。

25. 有価証券の時価、評価差額等に関する事項は次のとおりであります。これらには、「国債」、「社債」、「株式」、「その他の証券」のほか、「預け金」中の譲渡性預け金が含まれております。以下 27. ままで同様であります。

(1) 売買目的有価証券に区分した有価証券はありません。

(2) 満期保有目的の債券

【時価が貸借対照表計上額を超えるもの】

	貸借対照表計上額	時 価	差 額
国 債	78 百万円	80 百万円	2 百万円
社 債	1,515	1,542	27
その他	601	610	9
小 計	2,195	2,234	39

【時価が貸借対照表計上額を超えないもの】

	貸借対照表計上額	時 価	差 額
社 債	199 百万円	199 百万円	△0 百万円
小 計	199	199	△0
合 計	2,395	2,434	39

(注) 時価は当事業年度末における市場価格等に基づいております。

(3) 子会社・子法人等株式及び関連法人等株式に該当する有価証券はありません。

(4) その他有価証券

【貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの】

	貸借対照表計上額	取得原価	差 額
株 式	82 百万円	76 百万円	5 百万円
債 券	553	550	3
国 債	452	450	2
社 債	100	100	0
そ の 他	317	316	1
小 計	953	942	10

【貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの】

	貸借対照表計上額	取得原価	差 額
株 式	244 百万円	253 百万円	△9 百万円
債 券	149	150	△0
国 債	49	50	△0
社 債	99	100	△0
そ の 他	217	219	△1
小 計	611	622	△11
合 計	1,565	1,565	△0

(注) 1. 貸借対照表計上額は、当事業年度末における市場価格等に基づく時価により計上したものであります。

2. その他有価証券で時価のあるもののうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって貸借対照表価額とするとともに、評価差額を当事業年度の損失として処理（以下「減損処理」という。）しております。当事業年度における減損処理額はあります。

また、時価が「著しく下落した」と判定するための基準は、取得原価に対する当事業年度末における時価の下落率が50%以上である場合には著しい下落であると判定し、下落率が30%以上50%未満の銘柄については、信用状況ならびに時価の推移を検討し、

判定しております。

26. 当事業年度中に売却した満期保有目的の債券はありません。

27. 当事業年度中に売却したその他有価証券は次のとおりです。

売却価額 591百万円 売却益 41百万円 売却損 24百万円

28. その他有価証券のうち満期があるもの及び満期保有目的の債券の期間毎の償還予定額は次のとおりであります。

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
債券	222百万円	859百万円	1,312百万円	100百万円
国債	22	57	500	—
社債	200	802	812	100
その他	1,201	400	100	—
合計	1,423	1,259	1,412	100

(注) その他の1年以内には譲渡性預け金800万円が含まれております。

29. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客から融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は1,861百万円であり、全ての契約が原契約期間が1年以内のもの又は任意の時期に無条件で取消可能なものであります。なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当組合の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全、その他相当の事由があるときは、当組合が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条件が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている当組合内手続きに基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

30. 1. 繰延税金資産の主な発生原因別の内訳は、以下のとおりであります。

繰延税金資産

貸倒引当金損金算入限度額超過額	210百万円
税務上の繰越欠損金	154百万円
減価償却限度額超過額	21百万円
偶発損失引当金	11百万円
その他	26百万円
繰延税金資産小計	423百万円
評価性引当額	△402百万円
繰延税金資産合計	21百万円

2. 「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)が平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が廃止されることとなりました。これに伴い、平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異等にかかる繰延税金資産の計算に使用する法定実効税率は従来の29.4%から27.6%となります。この税率変更により繰延税金資産は1百万円減少しております。

以 上

2. 損益計算書

(単位:千円)

科 目	平成24年度	平成25年度
経 常 収 益	600,842	574,038
資 金 運 用 収 益	547,594	504,562
貸 出 金 利 息	435,584	411,931
預 け 金 利 息	46,906	27,744
有価証券利息配当金	60,702	60,486
その他の受入利息	4,400	4,400
役 務 取 引 等 収 益	26,437	24,880
受入為替手数料	16,990	16,341
その他の役務収益	9,447	8,538
そ の 他 業 務 収 益	8,735	1,805
国債等債券売却益	7,127	—
その他の業務収益	1,608	1,805
そ の 他 経 常 収 益	18,075	42,789
償却債権取立益	560	380
株 式 等 売 却 益	16,819	41,757
その他の経常収益	695	651
経 常 費 用	568,111	539,632
資 金 調 達 費 用	46,327	41,781
預 金 利 息	33,174	30,410
給付補填備金繰入額	1,902	778
借 用 金 利 息	11,249	10,592
役 務 取 引 等 費 用	31,542	30,475
支払為替手数料	4,797	4,906
その他の役務費用	26,744	25,568
そ の 他 業 務 費 用	1	24,065
国債等債券償還損	—	24,065
その他の業務費用	1	—
経 費	423,736	401,587
人 件 費	269,062	264,188
物 件 費	149,512	132,201
税 金	5,161	5,197
そ の 他 経 常 費 用	66,503	41,723
貸倒引当金繰入額	52,756	13,698
貸 出 金 償 却	—	4,631
その他の経常費用	13,747	23,393
経 常 利 益 (又は経常損失)	32,730	34,406

科 目	平成24年度	平成25年度
特 別 利 益	—	—
特 別 損 失	13,924	5,565
固定資産処分損	3,974	5,565
減 損 損 失	9,950	—
税引前当期純利益 (又は税引前当期純損失)	18,806	28,841
法人税・住民税及び事業税	456	456
法 人 税 等 調 整 額	△ 2,826	2,268
法 人 税 等 合 計	△ 2,369	2,724
当 期 純 利 益 (又は当期純損失)	21,176	26,116
繰越金(当期首残高)	33,556	37,381
当期末処分剰余金 (又は当期末処理損失金)	54,732	63,497

(損益計算書の注記事項)

- 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。なお、以下の注記については、表示単位未満を切り捨てて表示しております。
- 出資1口当たりの当期純利益 42円00銭

以 上

3. 剰余金処分計算書

(単位:千円)

科 目	平成24年度	平成25年度
当期末処分剰余金 (又は当期末処理損失金)	54,732	63,497
積立金取崩額	—	—
剰余金処分額	17,351	19,321
利益準備金	10,000	10,000
出資に対する配当金	7,351	9,321
	(年3%の割合)	(年3%の割合)
役員賞与金	—	—
特別積立金	—	—
(うち経営安定積立金)	(—)	(—)
繰越金(当期末残高)	37,381	44,176

4. 粗 利 益

(単位:千円)

科 目	平成24年度	平成25年度
資金運用収益	547,594	504,562
資金調達費用	46,327	41,781
資金運用収支	501,266	462,781
役務取引等収益	26,437	24,880
役務取引等費用	31,542	30,475
役務取引等収支	△ 5,104	△ 5,594
その他業務収益	8,735	1,805
その他業務費用	1	24,065
その他業務収支	8,733	△ 22,260
業務粗利益	504,896	434,927
業務粗利益率	1.74%	1.52%

(注)1. 資金調達費用は、金銭信託等運用見合費用を控除して表示しております。

2. 業務粗利益率 = $\frac{\text{業務粗利益}}{\text{資金運用勘定平均残高}} \times 100$

5. 業務純益

(単位:千円)

科 目	平成24年度	平成25年度
業務純益	82,144	128,888

6. 経費の内訳

(単位:千円)

科 目	平成24年度	平成25年度
人 件 費	269,062	264,188
報酬給料手当	228,200	211,984
賞与引当金純繰入額	△ 5,978	△ 620
退職給付費用	18,675	25,430
社会保険料等	28,165	26,774
物 件 費	149,512	132,201
事務費	67,417	63,101
固定資産費	22,118	20,252
事業費	18,984	11,913
人事厚生費	1,551	1,762
減価償却費	20,522	16,250
その他	18,919	18,921
税金	5,161	5,197
経費合計	423,736	401,587

(注) 人件費は平成13年度より賞与引当金純繰入額を計上しております。

7. 役務取引の状況

(単位:千円)

科 目	平成24年度	平成25年度
役務取引等収益	26,437	24,880
受入為替手数料	16,990	16,341
その他の受入手数料	9,447	8,538
その他の役務取引等収益	—	—
役務取引等費用	31,542	30,475
支払為替手数料	4,797	4,906
その他の支払手数料	19,931	16,760
その他の役務取引等費用	6,812	8,808

8. 受取利息および支払利息の増減

(単位:千円)

科 目	平成24年度	平成25年度
受取利息の増減	△ 40,936	△ 43,031
支払利息の増減	△ 1,707	△ 4,546

9. 主要な経営指標の推移

(単位:千円)

区 分	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
経常収益	721,976	670,461	619,474	600,842	574,038
経常利益 (又は経常損失)	33,292	62,722	△ 125,998	32,730	34,406
当期純利益 (又は当期純損失)	33,283	57,542	△ 119,325	21,176	26,116
預金積金残高	26,645,561	26,726,562	27,794,084	26,323,772	25,366,482
貸出金残高	16,152,607	16,315,708	16,337,211	16,582,399	17,390,864
有価証券残高	2,190,948	2,236,389	2,958,043	2,825,691	3,962,721
総資産額	28,205,545	28,282,585	29,242,885	27,993,303	27,113,923
純資産額	944,980	935,078	825,279	1,041,016	1,095,335
自己資本比率(単体)	10.43%	10.64%	9.77%	10.30%	8.79%
出資総額	209,659	209,389	209,072	309,719	312,949
出資総口数	419,318口	418,778口	418,145口	619,438口	625,898口
出資に対する配当金	6,285	6,280	6,268	7,351	9,321
職員数	47人	47人	45人	42人	41人

(注) 1. 残高計数は期末日現在のものです。

2. 総資産額には、債務保証見返は含んでおりません。

※過去の自己資本比率について誤りがありましたので、訂正しております。

(誤) 平成21年度 10.55%、平成22年度 10.75% 平成23年度 9.87% 平成24年度 10.37%

10. 資金運用勘定、調達勘定の平均残高等

科 目	年度	平均残高	利 息	利回り
資金運用勘定	24年度	29,004 ^{百万円}	547,594 ^{千円}	1.88%
	25年度	28,626	504,562	1.76
	うち			
	貸 出 金	24年度 15,832	435,584	2.75
		25年度 16,939	411,931	2.43
	うち			
資金調達勘定	預 け 金	24年度 9,951	46,906	0.47
		25年度 7,833	27,744	0.35
	うち			
	金融機関貸付等	24年度 -	-	-
		25年度 -	-	-
	うち			
資金運用勘定	有 価 証 券	24年度 3,111	60,702	1.95
		25年度 3,743	60,486	1.61
	うち			
	預 金 積 金	24年度 27,694	46,034	0.16
		25年度 26,988	41,781	0.15
	うち			
資金調達勘定	譲渡性預金	24年度 27,242	35,077	0.12
		25年度 26,548	30,410	0.11
	うち			
	借 用 金	24年度 -	-	-
		25年度 -	-	-
	うち			
資金運用勘定	借 用 金	24年度 450	11,249	2.50
		25年度 439	10,592	2.41
	うち			
	借 用 金	24年度 450	11,249	2.50
		25年度 439	10,592	2.41
	うち			

(注) 資金運用勘定は無利息預け金の平均残高(平成24年度8百万円、平成25年度7百万円)を控除して表示してあります。

11. 先物取引の時価情報

取扱いはありません。

12. オフバランス取引の状況

金利スワップ、通貨スワップ、先物外国為替取引、その他金融派生商品等の取扱いはありません。

13. 総資金利鞘等

(単位: %)

区 分	平成24年度	平成25年度
資金運用利回(a)	1.88	1.76
資金調達原価率(b)	1.69	1.64
資金利鞘(a-b)	0.19	0.12

14. 総資産利益率

(単位: %)

区 分	平成24年度	平成25年度
総資産経常利益率	0.11	0.12
総資産当期純利益率	0.07	0.09

(注) 総資産経常(当期純)利益率 = $\frac{\text{経常(当期純)利益}}{\text{総資産(債務保証見返を除く)平均残高}} \times 100$

15. その他業務利益の内訳

(単位: 千円)

科 目	平成24年度	平成25年度
そ の 他 業 務 収 益	8,735	1,805
国債等債券償還益	-	-
国債等債券売却益	7,127	-
その他の業務収益	1,608	1,805
そ の 他 業 務 費 用	1	24,065
国債等債券償還損	-	24,065
国債等債券売却損	-	-
その他の業務費用	1	-
そ の 他 業 務 利 益	8,733	△ 22,259

16. 有価証券、金銭の信託等の取得価格または契約価格、時価および評価損益

(単位: 千円)

項 目		取得価格または契約価格	時 価	評価損益
有価証券	24年度末	2,858,785	2,857,962	△ 823
	25年度末	3,963,491	4,001,953	38,462
金銭の信託	24年度末	－	－	－
	25年度末	－	－	－
デリバティブ 等 商 品	24年度末	－	－	－
	25年度末	－	－	－

- (注) 1. 「時価」は、「金融商品に係る会計基準の設定に関する意見書」(企業会計審議会:平成11年1月22日)に定める時価に基づいて表示しております。なお、時価のないものについては、帳簿価格で表示しております。
2. デリバティブ等商品とは、預金等と協同組合による金融事業に関する法律施行規則第41条第1項第5号に掲げる取引(金融先物取引、金融等デリバティブ取引、先物外国為替取引、有価証券デリバティブ取引等)を組み合わせた商品です。

17. 1店舗当たりの預金および貸出金残高

(単位: 千円)

区 分	平成24年度末	平成25年度末
1店舗当たりの預金残高	6,580,943	6,341,620
1店舗当たりの貸出金残高	4,145,599	4,347,716

18. 職員1人当たりの預金および貸出金残高

(単位: 千円)

区 分	平成24年度末	平成25年度末
職員1人当たりの預金残高	626,756	618,694
職員1人当たりの貸出金残高	394,819	424,167

19. 預貸率および預証率

(単位: %)

区 分		平成24年度末	平成25年度末
預 貸 率	(期 末)	62.99	68.55
	(期中平均)	58.11	63.80
預 証 率	(期 末)	10.73	15.62
	(期中平均)	11.41	14.09

資 金 調 達

20. 預金種目別平均残高

(単位:千円,%)

種 目	平成24年度		平成25年度	
	金 額	構成比	金 額	構成比
流動性預金	10,339,349	38.0	10,461,737	39.4
定期性預金	16,785,046	61.6	15,999,932	60.3
譲渡性預金	-	-	-	-
その他の預金	117,852	0.4	86,752	0.3
合 計	27,242,248	100.0	26,548,423	100.0

22. 財形貯蓄残高

(単位:千円)

項 目	平成24年度末	平成25年度末
財 形 貯 蓄 残 高	21,490	21,018

21. 預金者別預金残高

(単位:千円,%)

種 目	平成24年度		平成25年度	
	金 額	構成比	金 額	構成比
個 人	22,112,513	84.0	21,762,833	85.8
法 人	4,211,259	16.0	3,603,649	14.2
一般法人	4,138,531	15.7	3,528,264	13.9
金融機関	45,838	0.2	48,545	0.2
公 金	26,890	0.1	26,840	0.1
合 計	26,323,772	100.0	25,366,482	100.0

23. 定期預金の固定・変動金利別残高

(単位:千円,%)

区 分	平成24年度末		平成25年度末	
	金 額	構成比	金 額	構成比
固定金利定期預金	14,810,959	95.7	15,343,334	95.9
変動金利定期預金	661,626	4.3	656,598	4.1
そ の 他	-	-	-	-
合 計	15,472,585	100.0	15,999,932	100.0

資 金 運 用

24. 有価証券種類別平均残高

(単位:千円,%)

	区 分	金 額	構成比
平成24年度	国 債	214,205	6.9
	地 方 債	-	-
	社 債	1,845,882	59.3
	株 式	379,337	12.2
	外国証券	500,681	16.1
	その他の証券	170,930	5.5
	合 計	3,111,036	100.0
平成25年度	国 債	328,631	8.8
	地 方 債	-	-
	社 債	1,816,989	48.5
	株 式	416,363	11.1
	外国証券	813,280	21.7
	その他の証券	368,593	9.9
	合 計	3,743,857	100.0

25. 有価証券の種類別・残存期間別残高

(単位:千円)

	区 分	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超	期間の定め の無いもの	種類別 合 計
平成24年度	国 債	24,002	78,960	-	-	-	102,963
	公社・公団債	-	-	-	-	-	-
	社 債	300,000	704,086	815,104	100,000	-	1,919,190
	株 式	-	-	-	-	226,240	226,240
	外国証券	100,000	300,418	100,000	-	-	500,418
	その他の証券	-	76,880	-	-	-	76,880
	合 計	424,002	1,160,344	915,104	100,000	226,240	2,825,691
平成25年度	国 債	22,002	56,968	502,680	-	-	581,650
	公社・公団債	-	-	-	-	-	-
	社 債	200,000	803,043	812,652	100,000	-	1,915,695
	株 式	-	-	-	-	329,305	329,305
	外国証券	401,197	400,012	100,000	-	-	901,209
	その他の証券	-	30,074	29,983	-	174,801	234,859
	合 計	623,200	1,290,098	1,445,315	100,000	504,107	3,962,721

(注) 当組合は、商品有価証券を保有しておりません。

26. 貸出金種類別平均残高

(単位:千円,%)

科 目	平成24年度		平成25年度	
	金 額	構成比	金 額	構成比
割 引 手 形	485,323	3.1	367,623	2.2
手 形 貸 付	3,581,432	22.6	3,543,997	20.9
証 書 貸 付	10,869,785	68.6	11,855,288	70.0
当 座 貸 越	896,061	5.7	1,172,222	6.9
合 計	15,832,602	100.0	16,939,131	100.0

27. 貸出金固定金利・変動金利別残高

(単位:千円,%)

区 分	平成24年度		平成25年度	
	金 額	構成比	金 額	構成比
固 定 金 利	10,830,986	65.3	10,238,658	58.9
変 動 金 利	5,751,413	34.7	7,152,206	41.1
合 計	16,582,399	100.0	17,390,864	100.0

28. 貸出金業種別残高・構成比

(単位:千円,%)

業 種 別	平成24年度末		平成25年度末	
	金 額	構成比	金 額	構成比
製 造 業	1,417,326	8.5	1,464,021	8.4
農 業、林 業	247	0.0	—	—
漁 業	559	0.0	582	0.0
鉱業、採石業、砂利採取業	—	—	—	—
建 設 業	3,355,995	20.2	3,814,604	21.9
電気、ガス、熱供給、水道業	1,544	0.0	299	0.0
情報通信業	10,000	0.1	17,296	0.1
運輸業、郵便業	574,443	3.5	560,542	3.2
卸売業、小売業	2,392,233	14.4	2,368,605	13.6
金融業、保険業	100	0.0	—	—
不動産業	1,679,925	10.1	2,393,067	13.8
物品賃貸業	534,751	3.2	488,737	2.8
学術研究、専門・技術サービス業	8,555	0.1	95,075	0.6
宿泊業	435,628	2.6	306,269	1.8
飲食業	481,417	2.9	493,427	2.8
生活関連サービス業、娯楽業	179,112	1.1	182,655	1.1
教育、学習支援業	—	—	—	—
医療、福祉	12,760	0.1	39,999	0.2
その他のサービス	1,758,452	10.8	1,157,879	6.7
その他の産業	131,437	0.8	89,331	0.5
小 計	13,001,492	78.5	13,472,393	77.5
地方公共団体	—	—	—	—
雇用・能力開発機構等	—	—	—	—
個人(住宅消費・給付金等)	3,580,907	21.6	3,918,470	22.5
合 計	16,582,399	100.0	17,390,864	100.0

(注) 業種別区分は日本標準産業分類の大分類に準じて記載しております。

29. 貸出金使途別残高

(単位:千円,%)

区 分	平成24年度末		平成25年度末	
	金 額	構成比	金 額	構成比
運 転 資 金	11,460,331	69.1	11,251,733	64.7
設 備 資 金	5,122,068	30.9	6,139,130	35.3
合 計	16,582,399	100.0	17,390,864	100.0

30. 消費者ローン・住宅ローン残高

(単位:千円,%)

区 分	平成24年度		平成25年度	
	金 額	構成比	金 額	構成比
消費者ローン	678,284	23.9	487,020	15.8
住 宅 ロ ー ン	2,155,718	76.1	2,593,332	84.2
合 計	2,834,002	100.0	3,080,342	100.0

31. 貸倒引当金の内訳

(単位:千円)

項 目	平成24年度		平成25年度	
	期末残高	増減額	期末残高	増減額
一般貸倒引当金	114,242	△ 985	18,694	△ 95,548
個別貸倒引当金	960,768	49,741	777,861	△182,907
合 計	1,075,010	48,756	796,555	△278,455

(注) 当組合は、特定海外債権を保有しておりませんので「特定海外債権引勘定」に係わる引当は行っておりません。

32. 貸出金および債務保証見返担保別残高

(単位:千円)

区 分	貸出金残高	債務保証見返額
当組合預金積金	平成24年度 248,885	—
	平成25年度 204,436	—
有 価 証 券	平成24年度 —	—
	平成25年度 —	—
動 産	平成24年度 —	—
	平成25年度 —	—
不 動 産	平成24年度 3,163,141	—
	平成25年度 3,613,103	—
信用保証協会・信用保険	平成24年度 5,671,655	—
	平成25年度 6,215,125	—
保 証	平成24年度 7,386,957	164,119
	平成25年度 7,260,710	147,828
信 用	平成24年度 111,762	—
	平成25年度 97,487	—
合 計	平成24年度 16,582,399	164,119
	平成25年度 17,390,864	147,828

33. 貸出金償却額

(単位:千円)

項 目	平成24年度	平成25年度
貸 出 金 償 却 額	—	4,631

(注) 平成25年度は、直接償却した金額から既に貸倒引当金として積立てた58百万円を除いております。

34. リスク管理債権および同債権に対する保全額

(単位:千円,%)

区 分	平成24年度末	平成25年度末
リスク管理債権総額 (A)	2,238,990	2,001,229
破綻先債権額	130,086	36,411
延滞債権額	1,930,279	1,933,496
3ヵ月以上延滞債権額	3,985	3,122
貸出条件緩和債権額	174,640	28,200
担保・保証等 (B)	1,205,426	1,210,941
貸倒引当金 (C)	1,012,850	775,005
保全額合計 (D) = (B)+(C)	2,218,276	1,985,946
担保・保証等、引当金による保全率 (D)/(A)	99.07	99.23
貸倒引当金引当率 (C)/(A-B)	97.99	98.06

- (注) 1. 「破綻先債権」とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令第96条第1項第3号のイ、会社更生法等の規定による更生手続開始の申立てがあった債務者、ロ、民事再生法の規定による再生手続開始の申立てがあった債務者、ハ、破産法の規定による破産の申立てがあった債務者、ニ、商法の規定による整理開始又は特別清算開始の申立てがあった債務者、ホ、手形交換所の取引停止処分を受けた債務者、等に対する貸出金です。
2. 「延滞債権」とは、上記1. および債務者の経営再建又は支援（以下「経営再建等」という。）を図ることを目的として利息の支払いを猶予したものの以外の未収利息不計上貸出金です。
3. 「3ヵ月以上延滞債権」とは、元本又は利息の支払いが約定支払日の翌日から3ヵ月以上延滞している貸出金（上記1. および2. を除く）です。
4. 「貸出条件緩和債権」とは、債務者の経営再建等を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払い猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金（上記1. ～3. を除く）です。
5. 「担保・保証等 (B)」は、「リスク管理債権総額 (A)」における自己査定に基づく担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額です。
6. 「貸倒引当金 (C)」は、リスク管理債権以外の貸出金等に対する貸倒引当金は含まれておりません。
7. 「保全率 (D) / (A)」はリスク管理債権ごとの残高に対し、担保・保証、貸倒引当金を設定している割合です。
8. これらの開示額は、担保処分による回収見込額、保証による回収が可能と認められる額や既に引当てている個別貸倒引当金を控除する前の金額であり、全てが損失となるものではありません。

35. 金融再生法開示債権および同債権に対する保全額

(単位:千円,%)

区 分	平成24年度末	平成25年度末
破産更生債券及びこれらに準ずる債権	629,955	240,330
危険債権	1,472,279	1,767,221
要管理債権	178,625	31,322
不良債権計 (A)	2,280,859	2,038,873
正常債権	14,496,136	15,522,825
合計	16,776,995	17,561,698
担保・保証等 (B)	1,213,062	1,212,391
貸倒引当金 (C)	1,028,764	790,919
保全額合計 (D) = (B)+(C)	2,241,826	2,003,310
担保・保証等、引当金による保全率 (D)/(A)	98.28	98.25
貸倒引当金引当率 (C)/(A-B)	96.34	95.69

- (注) 1. 「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」とは、破産、会社更生、再生手続等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。
2. 「危険債権」とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権です。
3. 「要管理債権」とは、「3ヵ月以上延滞債権」及び「貸出条件緩和債権」に該当する債権です。
4. 「正常債権」とは、債務者の財政状態及び経営成績に問題がない債権で、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」以外の債権です。
5. 「担保・保証等 (B)」は「不良債権計 (A)」における自己査定に基づいて計算した担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額の合計額です。
6. 「貸倒引当金 (C)」は、「正常債権」に対する一般貸倒引当金を控除した貸倒引当金です。
7. 金額は決算後（償却後）の計数です。

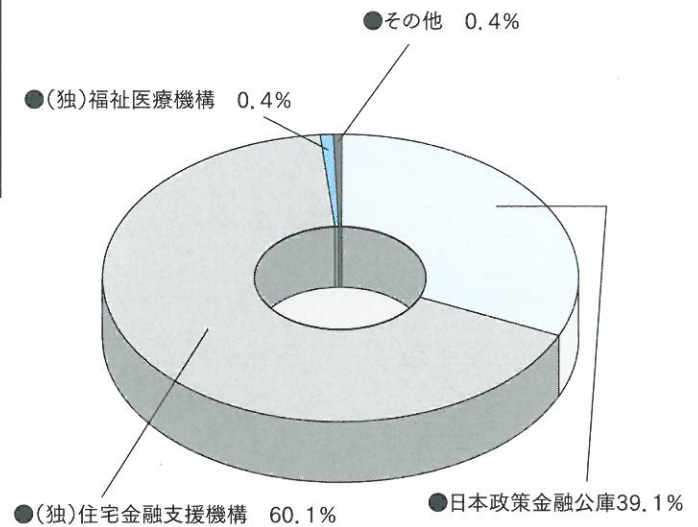
そ の 他 業 務

36. 代理貸付残高の内訳

(単位：千円)

区 分	平成24年度末	平成25年度末
全国信用協同組合連合会	—	—
(株)商工組合中央金庫	—	—
(株)日本政策金融公庫	284,601	286,258
(独)住宅金融支援機構	596,779	440,636
(独)福祉医療機構	7,817	3,245
そ の 他	4,100	2,732
合 計	893,297	732,871

平成25年度末 公庫・機構等別貸出残高構成比



37. 内国為替取扱実績

(単位：百万円)

科 目	平成24年度		平成25年度	
	件数	金額	件数	金額
送金 他の金融機関向け	16,545	14,008	16,151	13,954
振込 他の金融機関から	18,087	13,009	17,284	11,752
代金 他の金融機関向け	288	181	302	195
取立 他の金融機関から	179	87	194	182

40. 公共債引受額

取扱いはありません。

38. 外国為替取扱高

取扱いはありません。

41. 公共債窓販実績

取扱いはありません。

39. 外貨建資産残高

取扱いはありません。

42. 当組合の子会社

(平成25年3月末現在)

該当はありません。



本部

〒756 - 0824
山陽小野田市中央一丁目 2 番 40 号
☎0836-84-3300(代)

本店営業部

〒756 - 0824
山陽小野田市中央一丁目 2 番 40 号
☎0836-83-2563(代)



高千帆支店

〒756 - 0091
山陽小野田市日の出三丁目 8 番 3 号
☎0836-83-2413(代)



西宇部支店

〒759 - 0208
宇部市西宇部南三丁目 2 番 28 号
☎0836-41-0888(代)



厚狹支店

〒757 - 0001
山陽小野田市厚狹一丁目 2 番 22 号
☎0836-73-0010(代)